教育学研究科教官業績一覧

（2002年10月１日～2003年９月30日）

教育学コース

土　方　苑　子（教授）

＜論文＞

「中等学校の設置と地方都市」大石嘉一郎．金澤史男編『近代日本都市史研究――地方都市からの再構成――』日本経済評論社，2003年２月，pp649－698

今　井　康　雄（助教授）

＜編著書＞

『子どもたちの想像力を育む――アート教育の思想と実践』東京大学出版会，2003年３月（佐藤学との共編著）．

『教育と政治――戦後教育史を読みなおす』勁草書房，2003年９月（森田尚人，森田伸子との共編著）．

＜論文＞

"Walter Benjamin and John Dewey: The Structure of Difference between Their Thoughts on Education", in: *Journal of Philosophy of Education*, Vol.37, No.1, 2003.2, pp.109-125.

「子どもの美的経験の意味」佐藤学・今井康雄編『子どもたちの想像力を育む――アート教育の思想と実践』東京大学出版会，2003年３月，27-53頁．

「ニーチェの教養批判と言語批判」『教育哲学研究』第87号，2003年５月，23-28頁．

「メディアとしての「国語」――西尾・時枝論争を読みなおす」森田尚人・森田伸子・今井康雄編『教育と政治――戦後教育史を読みなおす』勁草書房，2003年９月，197-221頁．

＜招待講演＞

"Die Idee des 'Musters(*Kata*)' und die ästhetische Konstruktion des Ich im japanischen Kontext", Symposium "Japan zwischen Inszenierung und Aneignung" in Zürich am 8. Mai 2003.

＜その他＞

書評：鈴木幹雄『ドイツにおける芸術教育学成立過程の研究』『近代教育フォーラム』第11号，2002年12月，205-212頁．

「ヴァルター・ベンヤミンと子どもの思想」『美学，考』第４号，2003年１月，1-11頁．

「神話と啓蒙の間で」『近代教育フォーラム』第12号，2003年９月，137-141頁．

西　平　　直（助教授）

＜論文＞

「シュタイナー教育のアート―＜フォルメンが想像力を育む＞とはどういうことか」佐藤学・今井康雄編『子どもたちの想像力を育む―アート教育の思想と実践』（東京大学出版会）2003年３月，93－111頁．

「スピリチュアリティの位相―＜教育におけるスピリチュアリティ問題＞のために」皇紀夫編『臨床教育学の生成』（玉川大学出版部，2003年６月），206－232頁

「スピリチュアリティ再考―ルビとしての『スピリチュアリティ』」『日本トランスパーソナル心理学／精神医学』４号，（日本トランスパーソナル心理学／精神医学会，2003年）

「ホリスティックなものの見方とはどういうことか－見えるものを見えなくする仕掛け」『ホリスティック教育ガイドブック』，日本ホリスティック教育協会編，せせらぎ出版，2003年３月，26－30頁

「『無の思想』と子ども―『無の思想』を『教育の問い』の前に連れ出す試み」『近代教育フォーラム』12号，2003年

「トランスパーソナルとはどういうことか―依存でもなく自立でもない＜新しい関係性＞のために」『密教福祉』３号（密教福祉研究会，2003年），102－119頁

「トランスパーソナルとE. H.エリクソンのジェネラティヴィティ」『現代のエスプリ・トランスパーソナル心理療法特集』，2003年８月

Child Development from the Perspective of Eastern Philosophy, "Encounter; Education for Meaning and Social Justice", vol.16, Num.3 September, 2003.

＜翻訳＞

J.フリードマン『エリクソンの人生（上・下）』（共監訳，新曜社）2003年６月．

吉　長　真　子(助手)

＜論文＞

「1930年代における農村の産育への関心と施策――恩賜財団愛育会の事業から――」東京大学大学院教育学研究科教育学研究室『研究室紀要』第29号，2003年6月，1～13頁.

＜学会発表＞

「恩賜財団愛育会による愛育村事業の展開――戦時下農村における産育・教育・厚生事業――」教育史学会第46回大会(2002年10月5日　於中央大学).

谷　本　宗　生(助手)

＜著書＞

「金沢の軍政隊」金沢市史編さん委員会『金沢市史資料編12　近代二』金沢市，2003年3月，472～475頁.

「学校歴偏重から生涯学習への移行」北野秋男編『わかりやすく学ぶ教育制度～課題と討論による授業の展開～』啓明出版，2003年4月，56～67頁.

「日本の公教育政策と教育制度」北野秋男編『わかりやすく学ぶ教育制度～課題と討論による授業の展開～』啓明出版，2003年4月，82～92頁.

「日本の中央・地方の教育行政」北野秋男編『わかりやすく学ぶ教育制度～課題と討論による授業の展開～』啓明出版，2003年4月，93～105頁.

「ジェンダー問題と女子教育」北野秋男編『わかりやすく学ぶ教育制度～課題と討論による授業の展開～』啓明出版，2003年4月，151～164頁.

＜翻訳＞

「金沢の軍政隊」金沢市史編さん委員会『金沢市史資料編12　近代二』金沢市，2003年3月，489～507頁.

＜辞典校閲＞

日本国語大辞典第二版編集委員会『日本国語大辞典第二版』全13巻，小学館，2002年12月.

＜学会発表＞

「新制国立大学教育学部の設立過程～金沢大学の事例から～」全国地方教育史学会第3回公開研究会，名古屋大学教育学部，2002年12月.

塚　原　修　一(併任教授)

＜論文＞

「科学技術と社会のコミュニケーション―その人材問題」単著,『科学技術社会論研究』1号，126-133頁，2002年10月30日.

「教育政策と評価のダイナミズム」単著,『教育社会学研究』72集，5-20頁，2003年5月23日.

＜報告書＞

小松郁夫(研究代表者)『新しい時代における大学と産業社会との相関システムの構築に関する調査研究　中間報告書1』国立教育政策研究所，2003年3月31日，73頁（執筆個所；「1990年代以降の科学技術・学術政策―産学官連携への途」単著，5-12頁).

財団法人政策科学研究所『産業技術調査　産学連携の促進に向けた今後の課題に関する調査報告書〈第1部〉高等教育サービスの国際化等に関する調査研究』調査推進委員会主査代理，平成14年度経済産業省委託調査，230頁，2003年3月.

＜学会発表＞

「パネル制度の諸類型」単独，科学技術社会論学会第1回年次研究大会，東京大学駒場キャンパス，2002年11月16日.

「近世日本の酒造技術に関する史料について」2人のうち2番目，日本科学技術史学会第5回研究発表会，千葉県立現代産業科学館，2002年12月21日.

「高等教育サービスの貿易をめぐって」2人のうち筆頭，日本高等教育学会第6回大会，神戸大学，2003年5月24日.

課題研究3「高等教育と労働・産業―見直されるその関係」の討論者，日本教育社会学会第55回大会，明治学院大学，2003年9月21日.

比較教育社会学コース

苅　谷　剛　彦(教授)

＜著書＞

『「学力低下」の実態：調査報告』（志水宏吉・清水睦美・諸田裕子と共著)岩波ブックレット No.578 岩波書店 2002

『教えることの復権』（大村はま・苅谷夏子と共著）ちくま新書 2003.3

『学校臨床社会学―「教育問題」をどう考えるか―』（志水宏吉と共編著）放送大学教育振興会 2003.3

『高校から職業へのトランジッションの変容過程に関する研究 －「自己責任」時代における進路決定の多様化と遅延メカニズムの解明－(平成12年度～平成14年度科学研究費補助金(基盤研究(B)(2)(課題番号：11201429))研究成果報告書)』共著 2003.3

『なぜ教育論争は不毛なのか』（単著）中公新書ラクレ 中央公論新社 2003.5

＜論文＞

「二〇〇二年以後の教育改革は成功するか—政策評価の試み」『算数が出来ない大学生』（岡部恒治他編）東洋経済新聞社 pp.143－159

Stratified Incentives and Life Course Behaviors (James E. Rosenbaum と共著), Edited by Jeylan T. Mortimer, Michael J. Shanahan, Handbook of the Life Course Kluwer Academic / Plenum Publishers pp.51-78 2003

「３章 変化・授業タイプ・学習レリバンス」『学力低下の実態解明(その１)関西の研究から』苅谷剛彦，志水宏吉，本田由紀，清水睦美，鍋島祥郎，高田一宏，諸田裕子『学校臨床研究』第２巻第２号 東京大学大学院教育学研究科附属学校臨床総合教育研究センター 2003.3

「(１章)『学力低下』問題の課題 (1-2)なぜ学力問題を問題にするのか.(２章)学力と学習行動の実態 (2-3)関西調査のダイジェスト」『学力低下の実態把握と改善方策 －「学力問題プロジェクト」３年間のまとめ－』苅谷剛彦，志水宏吉，本田由紀，清水睦美，鍋島祥郎，高田一宏，諸田裕子『学校臨床研究』第２巻第１号 東京大学大学院教育学研究科附属学校臨床総合教育研究センター 2003.3

「若者よ，丁稚奉公から始めよう」『文藝春秋』５月号 文藝春秋 pp.359-365 2003.5

「教育における階層格差は拡大しているか」『「社会階層・意識に関する研究会」報告書』財務省財務総合政策研究所 pp.123-135 2003.6

＜連載＞

「『揺らぎ』を読み解く」『総合教育技術』小学館

「『子どものよさ』教育と個人主義」４月号 pp.70-71 2003.4,「日本型豊かさの浪費：平等主義と職業教育」５月号 pp.46-47 2003.5,「『教育基本法改正』論議はなぜ盛り上がらないのか」６月号 pp.46-47 2003.6,「全国学力調査の詳細分析報告：誰のための調査だったのか」７月号 pp.48-49 2003.7,「フリーター400万人時代の教育」8月号 pp.52-53 2003.8 「子どもと犯罪と学校：教育における『責任』」９月 pp.44-45 2003.9

＜その他の論考，インタビュー＞

「教えることの復権をめざして」『教育研究』４月号 初等教育研究会 pp.14-17 2003.4

「私が徹底して実証研究にこだわる理由」(インタビュー)『研究する意味』小森陽一監修 東京図書 2003.5

「なぜ学力低下を問題するのか」『学校臨床研究 第２巻第１号』学校臨床総合教育研究センター pp.5－7 2003.5

＜書評＞

「小山内美江子著『ボスと慕われた教師』」『朝日新聞』2003.4.6

「副田義也著『あしなが運動と玉井義臣 歴史社会学的考察』」『朝日新聞』2003.5.11

「小杉礼子著『フリーターという生き方』」『朝日新聞』2003.5.4

「菅野 仁著『ジンメル・つながりの哲学』」『朝日新聞』2003.6.1

「西原博史著『学校が「愛国心」を教えるとき』・高橋哲哉著『「心」と戦争』」『朝日新聞』2003.6.22

「ジル・A・フレイザー 著『窒息するオフィス 仕事に強迫されるアメリカ人』」『朝日新聞』2003.8.3

「宮淑子著『黙りこくる少女たち』」『朝日新聞』2003.8.30

＜新聞＞

「『研究で社会貢献』高校で志す」『毎日新聞』2002.11.4

「階層格差超え学力保障必要」『読売新聞』2002.12.11

「公教育 求められる役割は」『北海道新聞』2002.12.2

「どうする『学力低下』と『階層格差』環境の差，克服努力を」『毎日新聞』2002.12.2

「全国学力調査から見えるもの」『熊本日日新聞』2002.12.29

「深刻な『格差』の広がり 文科省は問題点直視を」『日本経済新聞』2003.1.25

「学校週５日制の無理」『読売新聞』2003.1.6

「勉強離れ“ゆとり”で加速」『中日新聞』2003.6.10

「『発展』教科書どう使う 上手に利用し授業組み立て」『朝日新聞』2003.9.7

白 石 さ や（教授）

＜論文・著書＞

「マンガのグローバル化を考える」勉誠出版『模倣と創造のダイナミズム』(山田奨治編)2003.2 181-214頁

「文化人類学と大衆文化 —マンガ・アニメのグロー

バリゼーションを事例として—」『文化人類学のフロンティア』(綾部恒雄 編著)2003.4.10 ミネルヴァ書房 第5章 121-154頁

『グローバル化を読み解く88のキーワード』(西川長夫 他編 平凡社 2003.4「マンガ・アニメ」(261-263頁)の項を担当.

＜報告書＞

「マンガ・メディアのグローバル化」『情報メディア研究資料センターニュース』東京大学社会情報研究所編 第5号(1－4頁)2003.4

＜コラム＞

「「プリズム」にみるアジアの未来」(Asian future that I can see from PRISM)『海鏡 プリズム』劇団影法師「日本ASEAN交流年2003」記念事業(15頁)2003.

＜学会発表等＞

東京外国語大学21世紀COEプログラム『史資料ハブ地域文化研究拠点』表象文化資料班第一回研究会講師「マンガ・アニメのグローバル化の構造とネットワーク」(2002.10.10)

日本民族学会教育検討委員会研究会『人類学の古典的理論と現代的課題をつなぐ試み』報告「グローバル化の時代の子どもと若者文化を考える」(2002.12.14)

日韓共同フォーラム文化交流チーム新潟会議報告「マンガ・アニメのグローバル化：韓国の事例」(2003.3.22)

日本国際文化学会第二会全国大会公開シンポジウム「グローバリゼーションと文化」について パネリストとして参加(2003.7.5)

「世界の子どもとマンガ・アニメ」日本小児保健学会の公開シンポジウム(鹿児島市民文化ホール) パネリストとして発表(2003.11.13)

「大衆文化の交流を考える」延生大学からの招聘講演会(2003.6.13)

「韓国における日本のマンガ・アニメ」日韓文化交流基金主催 韓国大学生訪日研修講師(2003.10.1)

矢 野 眞 和(教授)

＜執筆分担著書＞

「信頼できる政府の設計」市川伸一編『学力から人間力へ』教育出版 2003.9

＜論文＞

「大学のガバナンス」『計画行政』第26巻第1号 2003.3

「キャリア教育の新しい社会経済システム」『教育展望』2003.7

「改革戦略を俯瞰する」『大学改革がわかる』2003.9

「日本の学費」『IDE現代の高等教育』2003.11

＜雑誌論文＞

「ゆとりは平日から」『労働かながわ』2002.11

「教育を変える－岐阜県立情報科学芸術大学院の挑戦」『カレッジマネジメント』2003.1

「教育を変える－関西外国語大学の挑戦」『カレッジマネジメント』2003.3

「教育を変える－日本福祉大学の挑戦」『カレッジマネジメント』2003.5

「教育を変える－東海大学の挑戦」『カレッジマネジメント』2003.7

「教育を変える－一橋大学大学院国際企業戦略研究科の挑戦」『カレッジマネジメント』2003.9

「教育を変える－中村学園大学の挑戦」『カレッジマネジメント』2003.11

＜報告書＞

「大学における資金調達の多元化とガバナンス」『国立大学の財政・財務に関する総合的研究』(科学研究費補助金報告書：研究代表者天野郁夫)2003.3

広 田 照 幸(助教授)

＜著書；単著＞

『教育には何ができないか』春秋社，2003年2月7日，267頁.

＜論文＞

「〈教える－学ぶ〉関係の現在」『近代教育フォーラム』第11号，2002年12月4日，教育思想史学会，87～96頁.

「暴力被害の増加か，顕在化か？——平成14年版犯罪白書を読む——」『法律のひろば』第56巻第1号，ぎょうせい，2003年1月1日，11～17頁.

「旧制工業学校卒業生の社会移動に関する研究——山形県鶴岡工業学校を事例として——」『東京大学大学院教育学研究科紀要』第42巻，2003年3月10日，65～97頁(森直人，寺崎里水と共著).

「青少年問題という神話」森重雄・田中智志編『〈近代教育〉の社会理論』勁草書房，2003年4月3日，31～50頁.

「公立中学校のイメージと現実」『春秋』第448号，春秋社，2003年4月25日，14～17頁.

「放任と自主性——しつけ調査から考える——」『青少年問題』第50巻第9号，2003年9月1日，16～

21頁.

＜その他＞

(コメント)「『しつけ』と称して『虐待』する　子どもを育てられない『未熟な親』急増中」『月刊テーミス』第11巻第12号，テーミス，2002年11月21日，102～103頁.

(インタビュー)「『家庭の教育力低下』は幻想」『週刊教育資料』第800号，2003年４月28日号，日本教育新聞社，３～５頁.

(インタビュー)「教育にできること，できないことを明確に」『週刊教育資料』第801号，2003年５月５・12日号，日本教育新聞社，３～５頁.

(寄稿)「教育基本法　未来を限定する改正案」2003年５月29日『朝日新聞』(「私の視点」).

(インタビュー)「少年法厳罰化は必要なのか／応報感情には別の形で」『西日本新聞』2003年７月18日

恒　吉　僚　子(助教授)

＜分担執筆・論文＞

2003年「境界を越えた人々—グローバル化する社会の自分さがし」宮島喬・島薗進編『現代日本人の生のゆくえ—自律とつながり』藤原書店，396－428ページ.

2003年「差違軸の可動性と多元的“市民”像の模索—国際比較視点からの日本考察」(「市民性と公共的モラルに関する国際比較研究」基盤Ｂ２　12410074，東京大学出版協会出版予定)

2003年 “Internationalization Strategies in Japan: Study Abroad Programs Using English and the Dilemmas of an Asian Nation.”(「短期留学制度の多国間比較研究—日本語教育のグローバル・スタンダードの模索」，基盤Ｂ２　13571047)

2003年「教育におけるアメリカ・西欧モデルと文化的ジレンマー日本とマレーシアの選択」(「アジア太平洋の文化変容における米国の位置と役割」，特定領域B210201206，東京大学出版協会出版予定).

＜学会発表＞

2002年12月　共同開催，国際シンポジウム，「市民性教育＝課題と展望」(基盤Ｂ２)

2003年２月　“Farewell to the Japanese Model of Achievement?: The New Educational Reforms and the 'Academic Achievement Crisis'” in the “Family, School, Organization and Society in Korea and Japan: Psychological, Social, and Cultural Perspectives.” Sponsors: Dept. of Psychology, Chung-Ang University, Dept. of Social Psychology, University of Tokyo, Tokyo, Japan.

2003年３月，12月　基礎学力研究開発センター設置シンポジウム．東京大学教育学部主催．運営，討論者.

＜その他＞

2002年　「学校は今，市場化の波の中で」『英語教育』(特集Ｉアメリカは今)9－11.

2003年　「国際比較から見た日本の価値教育」『教育VIEW21』12号(道徳教育特集)，9－12.

2002年　『新しい社会　１－６年』(編集委員)　東京書籍.

2002年　『小学校　社会科』(編集委員)教育出版.

2002年　Ryoko Tsuneyoshi “Defining the Role of the International Specialist: A View from Japan.” International Educator XI, fall: 9－10.

2003年　「国際理解教育」「多文化教育・多言語教育」高橋勝他編『教育キーワード　137』時事通信社．12

西　島　　央(助手)

＜論文等＞

・「高遠国民学校の音・音楽」『音楽教育研究ジャーナル』第18号，東京芸術大学音楽教育研究室，１－45頁，2002年，(今川恭子・勝谷祥子・国府華子・幸山良子・中里南子・西島央・藤井康之・本多佐保美・村上康子による共著．分担執筆部分：「記憶からたどる儀式の中の音楽とその機能」34－38頁).

・「部活動を通してみる高校生活に関する社会学的研究－３都県調査の分析をもとに－」『東京大学大学院教育学研究科紀要』第42巻，99－129頁，2003年，(西島央・藤田武志・矢野博之・荒川英央・中澤篤史による共著．分担執筆部分：「Ｉはじめに」100－102頁，「Ⅱ調査の概要と調査対象校・対象者の属性　Ｂ調査対象校・対象者の特徴－部活動への関わり方を中心に－」102－105頁).

・「第１章　移行措置期間の取り組みからみえてくる小学校音楽科の特徴と課題－質問紙調査の分析から－」，研究代表者：佐野靖，平成12～14年度日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(C)(１)研究成果報告書『学校音楽の現状と課題に関する実証的研究－授業観察と質問紙調査を通して－』９－38頁，2003年.

・「中学校クラブ活動／部活動の顧問－生徒関係に

関する社会学的研究—生徒対象アンケート調査と教師対象インタビュー調査をもとに—」『マツダ財団研究報告書』vol.16,95－107頁，2003年,（西島央・藤田武志・矢野博之・中澤篤史による共著．分担執筆部分：「1.はじめに」95－96頁,「2.生徒教師関係に及ぼす部活動の影響（1）」96－98頁,「6.まとめ」106－107頁）.

＜学会発表＞

・「成人の音楽学習歴と音楽に対するかまえに関する社会学的考察—クラシックコンサート会場参集者に対するアンケート調査をもとに—」日本音楽教育学会第33回大会　於金城学院大学，2002年11月9日.

・「音楽教育史研究の再検討（3）—誠之国民学校の文書資料にみる当時の音・音楽の諸相—」日本音楽教育学会第33回大会　於金城学院大学，2002年11月9日,（今川恭子・本多佐保美・藤井康之・中里南子・西島央・村上康子・勝谷祥子・幸山良子による共同ポスター発表）.

・「クラシック音楽愛好に関する社会学的考察—コンサート会場参集者に対するアンケート調査をもとに—」日本教育社会学会第55回大会　於明治学院大学，2003年9月21日.

米　村　明　夫（客員教授）

＜編著書＞

編著『教育開発の現在』アジア経済研究所2003年,「総論　教育開発の現在—教育発展研究の構想と各論文の位置づけ—」「第3章　経済発展における教育の役割—成長理論と『東アジアの奇跡』による理解を中心に—（共著）」「第8章　メキシコにおける初等教育発展の現状と完全普及のためのプログラム」,「第9章　フィリピンにおける初等教育発展—動向，現状，規定要因の統計的分析—（共著）」

編著『貧困と教育－メキシコとブラジル－』アジア経済研究所2003年,「総論　貧困と教育－メキシコとブラジル－」「第1章　メキシコ先住民の教育戦略—オアハカ州ミッヘ民族の3つの村の事例—」

＜論文＞

「開発と教育：『国際的動向』をめぐる思潮と現実」（『経済セミナー』2003年7月，No.582）

＜その他＞

「児童労働」「メキシコの教育」（奥田真丈，河野重男監修『新版／現代学校教育大事典』ぎょうせい，2002.）

＜学会発表＞

日本比較教育学会第39回大会（玉川大学）2003年6月28日（土）発表「メキシコ先住民地域における教育発展の事例」

日本教育社会学会第55回大会（明治学院大学）2003年9月20日（土）発表「メキシコ先住民の小，中，高生の教育，職業アスピレーション」

教育心理学コース

渡　部　　洋（教授）

＜論文＞

Aye Aye Myint, Hidetoki Ishii and Hiroshi Watanabe, "Bayesian Regressions for Cross - Validation: An Application" New Developments in Psychometrics, 313-319 2002.11

市　川　伸　一（教授）

＜著書＞

『心理学研究法』，放送大学，2003（南風原朝和・下山晴彦との共編）

『学力から人間力へ』，教育出版，2003（編著）

＜学術雑誌論文＞

「テーマ学習における自己制御的活動の支援—地域における実践活動から—」，教育心理学研究，2002年，Vol.50, Pp.92-101.（植木理恵・清河幸子・岩男卓実との共著）

＜一般雑誌論文＞

「『ゆとりある教育』から『みのりある教育』へ」，楷樹，2003, 32号，Pp.4-7.（講演記録）

「『学力低下』問題を乗り越え，豊かな学びを創るには」，教育研究・岩手，2003, Vol.89, Pp.20-23.

「生徒の学習意欲をどう引き出すか」，VIEW21, 2003, Vol.6, Pp.6-10.（インタビュー記事）

「学習スキルをどう育てるか－認知カウンセリングの視点から－」，授業の研究（F・NET），2003, 154号，Pp.2-3.

「学びたい気持ちはどこから生まれるか」，子どもの文化，2003年3月号，Pp.2-14.（インタビュー記事）

「どのような＜学力＞をどう向上させていくのか—振り子運動の繰り返しを乗り越える—」，総合教育技術，2003年4月号，Pp.14-15.

「教育によって何を育てるか—「学力」から「人間力」へ—」，Eduko, No.1, Pp.4-5.（インタビュー記

事)

「認知心理学—人間の知のしくみを探る—」, AERA Mook『新版　心理学がわかる』, Pp.32-33.

「動機づけの心理学が進路指導を変える」, キャリアガイダンス, 2003年 No.1, Pp.12-19.(インタビュー記事)

「『確かな学力』の育成に向けて」, 文部科学時報, 2003年7月号, Pp.12-27.(座談会記録)

「今求められる学力向上策—『習得サイクル』と『探究サイクル』—」, 指導と評価, 2003年7月号, Pp.8-12.

南風原　朝　和(教授)

＜著書＞

『心理学研究法』(市川伸一, 下山晴彦と共編著)放送大学教育振興会, 2003年3月

『教育心理学［新版］』(子安増生, 田中俊也, 伊東裕司と共著)有斐閣, 2003年3月

＜論文＞

「モデル適合度の目標適合度——観測変数の数を減らすことの是非を中心に」『行動計量学』第29巻, 160-166頁, 2002年12月

「統計法の適用と結果の解釈をめぐって」日本教育心理学会編『教育心理学ハンドブック』有斐閣, 170-183頁, 2003年3月

＜学会発表＞

「研究結果をどのように表現し, 蓄積していったらよいのか——“効果の大きさ”の指標に焦点をあてて」(シンポジウム『心理学のためになる統計学を考える』における話題提供)日本心理学会第67回大会, 2003年9月

「共分散構造分析の最新の応用的話題」(ワークショップにおける指定討論)日本心理学会第67回大会, 2003年9月

＜その他＞

「試験の得点等化のための教育測定学的基礎」(山田剛史と共著)『我が国の公的試験における得点等化の導入に向けた心理・教育測定的研究』(科研費研究成果報告書)35-51頁, 2003年3月

「得点等化機能を備えた試験成績処理システムの開発」(杉澤武俊, 前川眞一と共著)上記報告書, 53-65頁, 2003年3月

下　山　晴　彦(助教授)

＜編著＞

心理学の新しいかたち—方法への意識—　下山晴彦・子安増生(編著)　誠信書房　2002年10月　pp273

心理学研究法　南風原朝和・市川伸一・下山晴彦(編)　日本放送出版協会　2003年3月　pp203

よくわかる臨床心理学　下山晴彦(編)　ミネルヴァ書房　2003年4月　pp273

臨床心理学　第3巻3号　特集　臨床心理面接の組み立て方　下山晴彦(編)　金剛出版　2003年5月　pp305 - 360

臨床心理学全書第4巻　臨床心理実習論　下山晴彦(編)　誠信書房　2003年9月　pp407

＜訳書＞

専門職としての臨床心理士　下山晴彦(編訳)　東京大学出版会　2003年4月　pp435

(What is clinical psychology?　J, Marzillier & J, Hall 1999 Oxford University Press)

＜監修＞

臨床心理学全書　第2巻　臨床査定学　岡堂哲雄(編)2003年9月　誠信書房　pp390

＜論文＞

「日本人の仕事意識—会社と個人をめぐって—」下山晴彦・森田慎一郎　21世紀フォーラム　87　2003月3月　pp16 - 21

「臨床心理学の専門性の発展をめぐって—米国と日本の対話—」『東京大学大学院教育学研究科心理教育相談室紀要』26　pp71 - 77

The Developmental Task of Clinical Psychology in Japan. Haruhiko Shimoyama July 2003. The Bulletin of Psychological Consulting Room. *School of Education.* University of Tokyo. Pp79-87.

Some Comments on the talks of Dr. Resnick and Dr. Norcorss. Haruhiko Shimoyama July 2003. The Bulletin of Psychological Consulting Room. *School of Education.* University of Tokyo. Pp7101-103.

An Essay on School Counselling and its Training: In terms of comparison between the U. S. and Japan. Haruhiko Shimoyama July 2003. The Bulletin of Psychological Consulting Room. *School of Education.* University of Tokyo. Pp168-171.

「特集：臨床心理面接の進め方」下山晴彦他『東京大学大学院教育学研究科心理教育相談室紀要』26 pp104 - 154

＜分担執筆＞

「第１章　心理学の新しいかたちを探る」下山晴彦・子安増生(編著)『心理学の新しいかたち―方法への意識―』誠信書房　2002年10月　pp1 - 37

「２．心理学の歴史と研究法の分類(pp21-32)」,「３．質的調査の考え方とデータ収集法(pp35-46)」,「５．質的調査の実際と研究評価(pp59-66)」,「13.実践研究の基本技能とその実習(pp165-174)」,「15.実践に関する研究と倫理(pp189-198)」『心理学研究法』南風原朝和・市川伸一・下山晴彦(編)　日本放送出版協会　2003年３月

「２－１　さまざまな「ひきこもり」の状態像：抑うつ・無気力」,『ひきこもる青少年の心』岡本祐子・宮下一博(編)　2003年３月　pp36 - 42

「はじめに」,「臨床心理学の理念」,「臨床心理学の全体構造」,「臨床心理学の実践活動」,「臨床心理学の研究活動」,「臨床心理学の専門活動」,「世界の臨床心理学の歴史」,「日本の臨床心理学の歴史」,「アセスメントとは何か」,「異常心理学とは何か」,「自閉症」,「学習障害」,「注意欠陥／多動障害」,「虐待」,「いじめ」,「介入：統合的視点」,「臨床心理学の課題」,「事例研究」,「臨床心理学の社会的専門性」『よくわかる臨床心理学』下山晴彦(編)　ミネルヴァ書房　2003年４月

「日本の臨床心理学の将来―国際的視野を踏まえて―」氏原寛・田嶋誠一(編)『臨床心理行為』創元社　2003年７月　pp66 - 87

「第１章　臨床心理実習の理念と方法」(pp1 - 36),「第４章　臨床心理基礎実習」(pp143 - 178),『臨床心理学全書第４巻　臨床心理実習論』下山晴彦(編)　誠信書房　2003年９月

＜その他＞

「質的研究におけるナラティヴの位置付け」下山晴彦『人間性心理学』20(２)　2002年12月

「特集にあたって―アセスメントから介入方針を決定する―」下山晴彦　2003年４月　『臨床心理学』３(３)　pp305 - 308

「児童期・思春期―見立てと援助」下山晴彦『Mindexぷらざ』９(２)2003年１月　pp10 - 13

「臨床心理学と精神医学との対話」(11・終)座談会・精神科医と臨床心理士の対話(野村俊明・島悟と)『こころの科学』pp124 - 131

田　中　千穂子(助教授)

＜著書・分担執筆＞

「こころのなかで『ことば』を育て，外とつなぐ」―上野さんの事例を読んで――，東洋英和女学院大学『心理相談室紀要』2003年２月，pp85-87

「言語臨床事例集　テーマ別シリーズ第７巻『母子関係と言葉』ともにあることの意味　治療者は何をしたか」学宛社　2003年４月，pp80-90

「自立性・社会性を育てる家族・学校・社会－社会への訴えとしてのひきこもり」，ひきこもる青少年の心　岡本祐子・宮下一博編著　2003年３月，pp110-121

＜書評＞

「意味の臨床」李敏子著　新曜社　精神療法28巻６号．2002年12月

＜事典＞

「箱庭療法」こころの医学事典　第５章「こころの病気」の治療法　第一出版社　2003年３月　pp586-587

＜その他の雑誌原稿＞

ショートエッセイ「わかる」ということをめぐって『東京大学心理教育相談室紀要』2003年７月 pp172-173

針　生　悦　子(助教授)

＜論文＞

Reorganizing the lexicon by learning a new word: Japanese children's interpretation of the meaning of a new word for a familiar artifact. *Child Development*,73, pp1378-1391. September/October, 2002 (今井むつみとの共著)

「レキシコンの獲得における制約の役割とその性質」『人工知能学会誌』18(１)，pp31-40. 2003年１月 (今井むつみとの共著)

「ニューラルネットワークによる刺激等価性のモデル」『電子情報通信学会技術研究報告書』，C2002-106(2003-02)，pp19-24.　2003年２月(岡田浩之，今井むつみ，山川宏との共著)

「人ならではの柔軟な知性とは何か？」『人工知能学会誌』18(５)，pp572-576.　2003年９月

「語意推論の制約：名詞・動詞をめぐって」『月刊言語』32(９)，pp98-103. 大修館書店，2003年９月 (今井むつみとの共著)

＜学会発表＞

「幼児における動詞の意味の切り出し：“自分でやっ

てみる”ことの効果」日本教育心理学会第44回総会発表論文集，p194. 2002年10月（今井むつみ，岡田浩之との共同）

「子どもはどうやって動きを切り出すのか：動詞学習メカニズムの解明に向けて」日本発達心理学会第14回大会発表論文集，S88. 2003年3月

The role of the object in young children's understanding of action verb meaning. *Paper presented at the Biennial Meeting of the Society for Research in Child Development*. Tampa, U. S. A. 2003年4月（今井むつみ，岡田浩之との共同）

「子どもの動詞学習における項構造および事物既知性の役割」日本認知科学会第20回大会発表論文集，p48-49. 2003年6月（今井むつみ，岡田浩之との共同）

野　村　晴　夫（助手）

＜著書：分担執筆＞

『よくわかる臨床心理学』 下山晴彦（編）ミネルヴァ書房 2003

担当項目：「ナラティヴ・セラピー」，「認知行動療法」，「ブリーフ・セラピー」，「自閉症」，「社会構成主義」

＜訳書：分担執筆＞

『専門職としての臨床心理士』 J. Marzillier & J. Hall（編）下山晴彦（編訳）東京大学出版会 2003

担当章：第1章「臨床心理学とは何か」，第3章「臨床心理学の展望」

＜論文＞

「心理療法における物語的アプローチの批判的吟味：物語概念の適用と運用の観点から」『東京大学大学院教育学研究科紀要』42 Pp.245 - 255 2002

「事例定式化アプローチによる事例理解と介入への方途」（共著）『東京大学大学院教育学研究科心理教育相談室紀要』26 Pp.137 - 146 2003

＜書評＞

『ナラティヴ・セラピーって何？』 アリス・モーガン 著 精神療法 29(4) Pp.116-117 金剛出版 2003

＜学会発表＞

「語りと自己の密なる関係・疎なる関係：語りの中の自己の在り処を探る」日本発達心理学会第14回大会発表論文集 2003 S123（ラウンドテーブル話題提供者）

山　田　剛　史（助手）

＜論文＞

中野貴博・山田剛史・西嶋尚彦「動的因子分析法によるコンディション変動の要因構造分析」『体育学研究』第48巻第4号，Pp.369-381

＜報告書＞

山田剛史・南風原朝和「試験の得点等化のための教育測定学的基礎」平成12,13,14年度 科学研究費補助金（特別研究推進費）研究成果報告書．我が国の公的試験における得点等化の導入に向けた心理・教育測定的研究，Pp.35-51.

「管理・評価専門小委員会関連用語集」平成12,13,14年度 科学研究費補助金（特別研究推進費）研究成果報告書．我が国の公的試験における得点等化の導入に向けた心理・教育測定的研究，Pp.133-137.

＜学会発表＞

「一事例実験データの評価のための記述統計指標について」日本行動分析学会第21回年次大会．2003年8月4日．

「多変量時系列シングルケースデータの解析の試み」日本教育心理学会第45回総会．2003年8月23日．

土　屋　隆　裕（併任助教授）

＜論文＞

土屋隆裕・前田忠彦「二種類の電話調査法の比較実験調査」『行動計量学』 第30巻第1号，93-109，2003年3月

＜調査報告書＞

子どもの体験活動研究会　文部科学省委託調査「完全学校週5日制の下での地域の教育力の充実に向けた実態・意識調査」報告書（共著） 2003年3月

子どもの体験活動研究会　文部科学省委託調査「子どもの自然体験活動等に関する実態調査」報告書（共著） 2003年3月

㈳日本PTA全国協議会 「モニタリングによるテレビ番組の実態調査」報告書 2003年3月

財務省財務総合政策研究所　法人企業統計の精度計算等報告書 2003年3月

学校教育開発学コース

藤　岡　信　勝（教授）

＜編著＞

『「つくる会」が問う日本のビジョン』2003年5月，扶桑社，350p.

＜編集＞

『教材開発の記録「江戸時代が可能にした明治維新」』東京大学教育学部学校教育学コース2002年度冬学期「教材開発研究」レポート集，2003年３月，127p.

＜論文＞

「連載・マンスリーノート34／『北朝鮮拉致事件』と教科書問題」『月曜評論』2002年10月号，pp.34-36

「連載・マンスリーノート35／『拉致問題』で日本外交に画期的な転換」『月曜評論』2002年11月号，pp.26-28

「連載・マンスリーノート36／歴史を転換させた『小泉訪朝』」『月曜評論』2002年12月号，pp.28-30

「小学生と『武士道』」『翼』No.70，2003年１月，pp.40-41

「連載・マンスリーノート37／告訴されるべきは週刊朝日」『月曜評論』2003年１月号，pp.28-30

「連載・マンスリーノート38／『武士道』を学んだ小学生の反応(上)」『月曜評論』2003年２月号，pp.32-34

「連載・マンスリーノート39／『武士道』を学んだ小学生の反応(下)」『月曜評論』2003年３月号，pp.34-36

「連載・マンスリーノート40／サダム・フセインとスターリン主義」『月曜評論』2003年４月号，pp.26-28

「連載・マンスリーノート41／文部科学省の無責任な教科書検定」『月曜評論』2003年５月号，pp.26-28

「連載・マンスリーノート42／『他社批判』めぐり教科書課と議論」『月曜評論』2003年６月号，pp.24-26

「偏向度NO１老舗出版社の倒産と歴史教科書検定の驚くべき実態」『正論』2003年７月号，産経新聞社，pp.262-273

「連載・マンスリーノート43／『学校でまなびたい歴史』の衝撃」『月曜評論』2003年７月号，pp.24-26

「連載・マンスリーノート44／福岡県共産党県議の採択妨害事件」『月曜評論』2003年８月号，pp.40-42

「連載・マンスリーノート45／『昭和の戦争』をどう教えるか(１)」『月曜評論』2003年９月号，pp.40-42

＜シンポジウム＞

(鄭大均他と)「日韓歴史認識の共有は可能か」2002年９月28日

＜その他＞

「教育委員会審議公開の条件を考える」産経新聞，2002年９月４日「正論」欄

「小学生に『武士道』の授業をしたところ･･･／『忠義』の観念に強い興味と関心を示す」産経新聞，2003年１月11日「正論」欄

中　田　基　昭(教授)

＜編著＞

『重障児の現象学――孤立した生から真の人間関係へ』2003年３月　川島書店　pp..258

＜分担執筆＞

'Phänomenologie der Fremderfahrung der Anderen', "Die Erscheinende Welt", hg. v. H. Huni/P. Trawny, Duncker&Humblot, Berlin 2002年11月 S. 311-S.336

＜その他＞

書評；岡田啓司 著『教育愛について――かかわりの教育学』(ミネルバ書房)

『教育哲学研究』第86号 2002年11月 pp..59-60

佐　藤　　学(教授)

＜著書：単著＞

『静悄悄的革命』李李湄訳　長春出版社　中華人民共和国　2003年１月.(『授業を変える・学校が変わる』の中国語版)181p.

『課程与教師』(世界課程与教学新理論文庫)鐘啓泉訳　教育科学出版社　中華人民共和国　2003年６月(『カリキュラムの批評』『教師というアポリア』の中国語訳)399p.

『教師たちの挑戦―授業を創る・学びが変わる』小学館　2003年８月　247p.

＜著書：共編著＞

佐藤学・今井康雄編『子どもたちの想像力を育む－アート教育の思想と実践』東京大学出版会　2003年３月

三脇康生・岡田敬司・佐藤学編『学校教育を変える制度論－教育の現場と精神医療が出会うために』万葉舎　2003年４月

＜著書：分担執筆＞

「歴史教科書はどうあるべきか」(成田龍一，尹健次と共同執筆)(金子勝・藤原帰一・山口二郎編『東アジアで生きよう』岩波書店　2003年１月　pp.163-192.)

「丸山真男「『である』ことと『する』こと」を読む」(田中実・須貝千里編『新しい作品論へ，新しい教材論へ』(評論篇)右文書院　2003年2月　pp.25-43.)

「想像力と創造性の教育へ—アートと子どもの結合の諸相」(佐藤学・今井康雄編『子どもたちの想像力を育む』東京大学出版会　2003年3月　pp.2-26.)

「教育改革の処方箋」(苅谷剛彦，池上岳彦と共著　中井浩一編『論争・学力崩壊2003』中公新書ラクレ　2003年4月　pp.82-124.)

Wie Geshichtesshulbucher sein sollten, Manabu Sato, Ryuichi Narita und Yun Kon-Cha, (Steffi Richter und Wolfgang Hopken (Hg.) Vergagenheit im Gesellshaftskonflikt: Ein Historikerstreit in Japan. Boehlau Verlag, Deutshland. April 2003, 167-189.)

「活動の装置としての学校—改革のデザインから実践の科学へ」(三脇康生・岡田敬司・佐藤学編『学校教育を変える制度論－教育の現場と精神医療が出会うために』万葉舎　2003年4月　pp.146-190.)

＜論文＞

「教育基本法『改正』というトラウマ」(『現代思想』2003年4月　青土社　pp.78-85.)

「リテラシーの概念とその再定義」(日本教育学会『教育学研究』第70巻第3号　2003年9月　pp.2-11.)

＜その他＞

「信頼で結ばれたコミュニティづくり」(連載「学びをデザインする(18)」『総合教育技術』小学館　2002年10月)　pp.98-101.

「授業を変えるために—事例への助言(6)家庭科」(『学び方』学び方研究会　2002年10月)

「パリ郊外の小学校から—学び合う教室の創造」(連載「学びをデザインする(19)」『総合教育技術』小学館　2002年11月　pp.94-97.)

「学びの共同体へ＝学校づくりの足跡」(教育者教育研究所『きょういくの風』第11号　佼成出版社　2002年11月　pp.5-11.)

「イメージと思考を交流する教師の応答」(連載「学びをデザインする(20)」『総合教育技術』2002年12月　pp.94-97.)

「「新しい時代」に似つかわしくない復古調の改正案—中教審の中間報告を読む」(『総合教育技術』小学館　2003年1月　p99.)

「学びをつなぎ民主的コミュニティをつくる—ケンブリッジ市の小さな学校」(連載「学びをデザインする(21)」『総合教育技術』小学館　2003年2月　pp.98-101.)

「学校教育学＝混迷する現実と深刻な問いとの闘い」(『AERA Mook 新版・教育学がわかる』朝日新聞社　2003年6月　pp.10-11.)

＜講演・シンポジウム＞

Beyond Labyrinth of Modernization: Reframing History of Japanese Education, Invited Speech at El Colegio De Mexico, Mexico, October 2, 2002.

Practical Discourses and Political Agenda of School Reform: Active Progress in Action Research, Invited Speech at Secretaria de Educacion Publica, Secretaria de Educaciony Normal Direccion General de Invetigacion Educativa, Mexico D. F., Mexico, October 4, 2002.

Imvisible Practice of Impossible Profession: Sharing Practical Wisdom in Action Resarch, Invited Speech at College of Education, University of Michigan, Ann Anorbor MI, USA, November 5, 2002.

司会と発題「大人と子どもの関係の構造転換—ケアリングの倫理へ」(日本教育学会主催・国際シンポジウム「大人と子どもの関係の構造転換—ケアリングと教育」京都大学　2002年12月16日)

司会と発題「国民の教育から市民の教育へ—グローバル社会の論争的課題」(国際シンポジウム「市民性の教育＝課題と展望」東京大学　2002年12月19日)

「中教審・教育基本法『改正』案の批判的検討」(教育学関連15学会共同公開シンポジウム　明治大学　2003年4月19日)

講演とシンポジウム「市民的教養の形成へ——大学教育の21世紀」(神戸女学院大学　2003年7月12日)

「学力問題の危機の位相－論題と展望」(日本教育方法学会第39回大会シンポジウム「現代社会における学力のあり方」滋賀大学　2003年9月28日)

＜対談・座談＞

「制度論の契機としてのダイアローグ」(佐藤学＋三脇康生，三脇康生・岡田敬司・佐藤学編『学校教育を変える制度論－教育の現場と精神医療が出会うために』万葉舎　2003年4月　pp.120-145.)

「子ども・暴力・家庭・学校」(佐藤学＋奥谷禮子，奥谷禮子『如是我聞—私のささやかな戦記』亜紀書房　2003年6月　pp.216-220.)

「『学校』をつくることは『コミュニティ』をつくること」(小泉雅生＋湯澤正信＋上野淳＋佐藤学＋船越徹『近代建築』2003年9月　pp.36-43.)

＜インタビュー＞

「教育基本法見直し・現場の未来は開けない」(『朝日新聞』2003年３月30日)

「すべての場所に『学びの共同体』を―佐藤学氏に聞く」(＜聞き手＞重松清　『ちくま』2003年４月号　筑摩書房　pp.20-25.)

「『勉強』から『学び』へ」(＜聞き手＞井田由美　『三洋化成ニュース』2003年初夏　pp.7-12.)

「研究室散歩・学びの体系求め現場に関与」(東京大学新聞社編『東大は主張する2002』星雲社　2003年７月　p.98.)

「学校と私」(『毎日新聞』2003年８月25日)

「小泉『構造改革』と『教育改革』のなかで」(全日本教職員組合『クレスコ』2003年９月号　大月書店　pp. 10-16.)

＜テレビ出演＞

「世界潮流2003　変わる世界の学力マップ」(NHK衛星放送BS-１，2003年５月17日)

佐々木　正　人(教授)

＜単著＞

「レイアウトの法則―アートとアフォーダンス」　春秋社　2003年

＜分担執筆＞

苧坂直行編『意識の科学は可能か』　３章「身体からみた意識」　pp.141-176　新曜社　2002年

奥出直人・後藤武編集『デザイン言語』「レイアウトとアフォーダンス」　pp.127-150　慶応大学出版会　2002年

河本英夫編著『システムの思想』　４章　「アフォーダンスとオートポイエシス―知覚と行為をめぐって」PP.71-110　東京書籍 2002年

根ケ山光一・川野健治編　『身体から発達を問う』　５章「物と行為」pp.95-112　新曜社　2003年

佐藤学・今井康雄編『子どもたちの想像力を育む―アート教育の思想と実践』　11章「レイアウトと知覚」pp.208-225　東京大学出版会　2003年

ベルンシュタイン，N. A.『デクステリティ―巧みさとその発達』(工藤孝展訳　佐々木正人監訳)「解題　運動はどのようにして環境に出会うのか」　pp.315-330　金子書房

SASAKI MASATO & HIROYUKI MISHIMA(2003) Surface and Action; Concepts of Affordance in Ecological Psychology, *Dynamic systems approach for embodiment and sociality; From Ecological psychology to Robotics*, Murase Kazuyuki & Asakura Toshiyuki(eds.), Advanced knowledge international publisher, pp.14-19

＜学会誌論文＞

Honno, Y., Ito, K., Matsuishi, T., Okura, M., & Sasaki, M. 2003 How do harbour porpoise act in the unfamiliar environment? *Studies in perception and action* Ⅶ　2003 191-194 LEA

Takahashi, A., Hayashi, K., & Sasaki, M. Movement sequences for cracking an egg. *Studies in perception and action* Ⅶ 2003 165-168 LEA

物・環境を行為で記述する試み　人工知能学会誌　18(４)　pp.399-407 2003

＜雑誌論文等＞

対談　森俊夫と　全てを使う―エリクソンと方法なき方法　現代思想　2002年　vol30－４　114-129

インタビュー　アフォーダンスとダーウィン進化論の接点　理戦　69　2002　60-72

対談　中村桂子と　環境から人間を考える　季刊生命誌　35 2002

インタビュー　知覚＝運動の協応構造　季刊　インターコミュニケーション　45号　pp.64-71

＜講演等＞

29回知能システムシンポジウム特別講演　学術総合センター(2002年)

37回日本理学療法士協会全国研修会「環境適応」山形(2002年)

Dynamic systems approach for embodiment and sociality Fukui internationalactivities plaza & FUKUI UNIV.(2002年)

日本理学療法士協会542回現職講習会(和歌山県立医科大学付属病院)講演(2002年)

第44回人工知能セミナー　身体障害者への人工知能研究応用の可能性を探る―実世界(＝利用者＋環境)の多様性と非予測性に対する取り組み　早稲田国際会議場(2003年)

慶応大学特別講義『デザイン言語』(2003年)

日本生理人類学会環境部会講演(2003年)

日本心理学会第67回大会大会本部企画シンポ　東京大学(2003年)

金　森　　修(教授)

＜著書＞

１)『負の生命論』単著，勁草書房，2003年１月10日，pp. i-x, i-xiii, ＋pp.1-219.

2)『ベルクソン』単著，NHK出版，2003年9月20日，pp.1-110.

＜分担執筆＞

1)「概念史から見た生命科学」，廣野喜幸・市野川容孝・林真理編『生命科学の近現代史』勁草書房，2002年10月，第11章，pp.339-364.

2)「場の自律性と社会力学」，宮島喬・石井洋二郎編『文化の権力』，藤原書店，2003年1月30日，pp.163-187.

＜論文＞

1)「汚れた知——タスキーギ研究の科学と文化」『負の生命論』第一章，書き下ろし論文，勁草書房，2003年1月10日，pp.2-110.

2)"Science Wars and Japanese Postmodernism" *Korean Journal for the Philosophy of Science*, vol. 6, no. 1, Spring 2003, 2003年6月15日，pp.107-140.

3)「リベラル新優生学と設計的生命観」，『現代思想』vol.31, no.9, 2003年7月，pp.180-202.

4)"Philosophy of Genetic Life Designing", *Jahrbuch fur Bildungs-und Erziehungsphilosophie*, 5, July 2003, pp.59-81.

＜翻訳＞

1)スーザン・ボルド「イデオロギーとしての飢え」『思想』第946号，2003年2月，pp.31-60.　柴田崇との共訳

＜書評＞

1)村上義雄「人間　久野収」『読売新聞』2002年10月6日

2)R・E・タンジ，A・B・パーソン「痴呆の謎を解く」『読売新聞』2002年10月20日

3)二宮陸雄「インスリン物語」『読売新聞』2002年10月27日

4)「『海賊』としてのバイオ技術？：バンダナ・シバ『バイオパイラシー』」『i feel』no.22, 2002年11月1日，pp.76-77.

5)林真理「操作される生命」『読売新聞』2002年11月10日

6)小川隆夫「マイルス・デイヴィスの真実」『読売新聞』2002年11月17日

7)山口裕之「コンディヤックの思想」『読売新聞』2002年12月1日

8)「精神の一般モデルに向けて」『週刊読書人』第2466号，2002年12月13日

9)小松美彦「対論　人は死んではならない」『読売新聞』2002年12月15日

10)「2002年私のベスト3」『読売新聞』2002年12月22日

11)「意識という幻：トール・ノーレットランダーシュ『ユーザー・イリュージョン』」『i feel』no.23, 2003年2月1日，pp.76-77.

12)「2002年読書アンケート」『みすず』第502号，2003年2月1日，p.10.

13)「体のなかの『戦争と平和』」『週刊読書人』第2479号，2003年3月21日

14)「先端技術の社会的規制に向けて：フランシス・フクヤマ『人間の終わり』」『i feel』no.24, 2003年5月1日，pp.76-77.

15)「2003年上半期3冊」『週刊読書人』第2497号，2003年7月25日

16)「これは，〈思想警察〉の調書なのか？」『図書新聞』第2641号，2003年8月9日

＜学会等発表＞

1)「人体実験論の一具体例に関する考察」科学技術社会論学会，東京大学，2002年11月16日

2)「ジャーナリズム的スタンスの内在化について」科学技術社会論学会，東京大学，2002年11月17日

3)"Science Wars and Japanese Postmodernism" the 72th Colloquium, the History and Philosophy of Science, Seoul National University, 20 November 2002

4)"Ethics of Genetic Life Design" IVth Asian Conference of Bioethics, Seoul National University, 24 November, 2002

5)「タスキーギ研究の科学と文化」科学技術社会論研究会，東京大学先端科学技術研究センター，2002年12月7日

6)"Comment on Public Lecture of Professor Barbara Koenig"Cornell/Sophia Universities Joint Workshop: Empirical Bioethics in Cultural Contexts，上智大学，2003年1月30日

7)「PVSと生命倫理」第30回日本集中治療医学会，ロイトン札幌・北海道厚生年金会館，2003年2月5日

8)「遺伝的生命設計の哲学」第10回応用解析研究会，箱根パークス吉野，2003年3月4日

9)「私が大学時代に学んだこと」東京大学教養学部進学情報センターシンポジウム，2003年4月25日

10)「健康の科学をめぐる知」共同主催，レスポンダント，科学技術社会論研究会ワークショップ，東京大学先端科学技術研究センター，2003年6月21

日

11)「PVS 患者の生と死に関わる倫理的考察」，第29回医学系大学倫理委員会連絡会議シンポジウム，ホテルグランドパレス，2003年7月5日

12)「遺伝子改造論の射程」，生命科学・生命技術の進展に対応した理論と倫理と科学技術社会論の開発研究，第1回研究会，北沢タウンホール，2003年9月20日

秋　田　喜代美(助教授)

＜著著・単著＞

『読む心・書く心：文章の心理学入門』北大路書房 pp.126. 2002年10月

＜著書・分担執筆＞

「保育者の専門的成長」(小田豊・榎沢良彦(編)『新しい時代の幼児教育』有斐閣 pp.170-190. 2002年10月)

「教育心理学研究の論文の書き方」「教育心理学研究のための倫理」(日本教育心理学会(編)『教育心理学ハンドブック』有斐閣　pp.185-189, pp.198-199, pp.206-207　2003年2月)

「実践研究の発展：アクションリサーチ」(南風原朝和・市川伸一・下山晴彦(編)『心理学研究法』放送大学出版会，pp.175-187. 2003年3月)

「レッジョ・エミリアの教育学」(佐藤学・今井康雄(編)『子ども達の想像力を育む：アート教育の思想と実践』東京大学出版会　pp.73-92. 2003年4月)

「幼稚園と小学校の連携」(小田豊・神長美津子(編)『新たな幼稚園教育の展開：幼児教育の展開に向けて』東洋館出版　pp.203-215. 2003年7月)

「学校教育における「臨床」研究を問い直す：教師との協働生成の試みの中で」(日本教育方法学会(編)『新しい学びと知の創造』図書文化　pp.114-127. 2003年9月)

＜翻訳書＞

米国学術研究推進会議　ブランスフォード・ブラウン・クッキング(編著)森　敏昭・秋田喜代美(監訳)21世紀の認知心理学を創る会(訳)『授業を変える：認知心理学のさらなる挑戦』北大路書房 pp331. 2002年10月

＜学術論文＞

「「生き餌」理解にみる5歳児の生命認識」『乳幼児教育学研究』11, 53-60.(増田時枝との共著)2002年12月

「幼小の連続的な育ちと保育・教育内容」『保育学研究』40(2)，337-339. 2003年1月

「授業における話し合い場面の記憶：参加スタイルと記憶」『東京大学大学院教育学研究科紀要』,42, 257-274.(市川洋子，鈴木宏昭との共著) 2003年3月

「子どものひらがなと読字の学習」『読書科学』47(1)，31-37.(小嶋恵子・波多野誼余夫との共著) 2003年8月

＜報告書＞

「保育に関する意識調査報告書」ソニー教育財団　pp.33(中澤 潤との共同研究調査企画・監修)2003年3月

＜雑誌論文＞

「幼児期と児童期の発達と教育：連続性を見いだす教師」『初等教育資料』761，2-7. 2002年10月

「子どもの危機への支援：これからの専門職に求められるもの」『発達』93，2-8. 2003年1月

「授業における「ことばの学び」」『ことばの学び』2, 26-29.2003年4月

「遊びの中の学び」「事例解説」『幼稚園じほう』31(2)，5-10，20-25. 2003年5月

「子どもの表現力をはぐくむ」『教育展望』49(4)，p4-10. 2003年5月

「家庭教育に望むこと」『教育研究』1218，10-13. 2003年6月

「教師の専門性と校内研修の在り方」『初等教育資料』773，2-5. 2003年9月

＜雑誌連載＞

「幼児期からはぐくむ人権の心」『週刊教育プロ』32(38)，23. 2002年10月

「「信頼」を生み出す幼稚園」『週刊教育プロ』32(42)，26. 2002年11月

「ルール作り・ルール破りのすすめ」『週刊教育プロ』32(46)，25. 2002年12月

「「こなす」保育から「よく考えられた」保育へ」『週刊教育プロ』33(4)，23. 2003年2月

「親を育てる支援」『週刊教育プロ』33(8)，21. 2003年3月

「「絵本」経験の質」『週刊教育プロ』33(12)，23. 2003年4月

「園と保護者の意識のずれ」『週刊教育プロ』33(16)，31. 2003年5月

「学力問題と幼児教育」『週刊教育プロ』33(20)，33. 2003年6月

「音を楽しむ」『週刊教育プロ』33(24)，35. 2003年7

月
「動き作りと動き崩し」『週刊教育プロ』33(28), 35. 2003年8月
「認める軸と叱る軸」『週刊教育プロ』33(32), 24. 2003年9月
「レッジョエミリアの保育から学ぶもの1：子どもの創造力を育てる保育組織と大人の連携」『チャイルドネット大阪』30, 11-12. 2002年11月
「レッジョエミリアの保育から学ぶもの2：子どもたちの「100の言葉」が生まれる過程」『チャイルドネット大阪』31, 11-12. 2002年12月
「レッジョ・エミリアの保育から学ぶもの3：豊かな表現を支える保育環境」『チャイルドネット大阪』, 32, 11-12. 2003年1月
「レッジョ・エミリアの保育から学ぶもの4：親と地域の連携」『チャイルドネット大阪』33,11-12. 2003年2月
「レッジョ・エミリアの保育から学ぶもの5：小さな挑戦から大きな可能性へ」『チャイルドネット大阪』34, 11-12. 2003年3月
「これからの幼稚園教育と保育者の専門性(1)こだわりから学ぶ」『日本教育』312, 26-27. 2003年5月
「これからの幼稚園教育と保育者の専門性(2)園内研修での事例研究」『日本教育』313, 24-25. 2003年6月
「これからの幼稚園教育と保育者の専門性(3)保育者の居方をみつめる」『日本教育』314, 24-25 2003年7月
「これからの幼稚園教育と保育者の専門性(4)環境構成における保育者の役割」『日本教育』315, 24-25. 2003年8月
「これからの幼稚園教育と保育者の専門性(5)気になる子から学びをみる」『日本教育』316, 22-23. 2003年9月
「暮らしの中の文章心理学1:書くことは，きづくこと」『デイシラ』3, 6-7.2003年4月
「暮らしの中の文章心理学2:読むことは，つなぐこと」『デイシラ』4, 6-7.2003年5月

＜書評＞

「日本語教育のための心理学：日本語を学ぶ人という視点からの心理学」『月刊日本語』15(12), 78. 2002年11月
「教室から生まれた物語」『教育展望』49(7), 52. 2003年7月
「はじめてのアニマシオン」『LISN』116, 24. 2003年9月

＜学会発表＞

「幼児期におけるインフォーマルな数表記の発達過程」日本教育心理学会第44回総会発表論文集 pp381. 2002年10月
「教室のアクションリサーチ研究」「教室研究への新しいアプローチ」シンポジウム話題提供者 pp.S46-47. 2002年10月
「ブックスタートプロジェクトにおける絵本との出会いに関する親の意識(4)18ヶ月時点での読み聞かせ行動と読み聞かせ頻度・愛着・育児ストレスとの関連」日本乳幼児教育学会12回研究発表論文集, pp.118-119.(横山真貴子との共同)2002年11月
「ブックスタート協力家庭の母子相互作用(1)絵本への媒介者としての母親のガイダンス,(2)母親がことばで伝える絵本場面の特徴,(3)子どもの注意中断に対する母親の対応,(4)母と子をつなぐ媒介手段としての指差し」(横山真貴子・森田祥子・菅井洋子との共同研究発表)日本発達心理学会第14回大会発表論文集 pp.241-244. 2003年3月
「かくことの発達過程と機能(2)表記知識の獲得過程をめぐって」(ラウンドテーブル企画・司会)日本発達心理学会第14回大会発表論文集 pp. S128. 2003年3月
"From East to West Ⅱ:Facilitating children's intellectual development." Paper presented in AERA Symposium USA: Chicago.(with R. Kadota, Y. Oda, H. Ashida, J. Suzuki). 2003.4
「描画領域における表記知識の発達過程(3)：事物の面の統合過程についての検討」(古池若葉との共同研究発表)日本教育心理学会第45回総会発表論文集, pp.647.2003年8月
「アクションリサーチにおけるリサーチクエッションの次元」日本教育心理学会第45回総会発表論文集 S70(シンポジウム話題提供者).2003年8月
"How Japanese teachers share their practical knowledge in lesson research: New reform of research lesson in Japan." Paper presented in 10th EARLI Symposium. Italy: Padova. 2003年8月
"Japanese young children's knowledge of mapping speeches to spellings." Paper presented in 10th EARLI Symposium Italy: Padova. 2003年8月

＜海外講演＞

"Early Childhood Education in Japan" paper presented

in TAEYC 2002(Tucson Association Early childhood Education Annual Conference)2002年11月 Arizona: Tucson

"Vorschulerziehung in Japan: Reformen und Perspektiven" paper presented in Duesseldorf Universitaets. Duesseldorf: Deutsch 2003年5月

＜講演等記録＞

「知的教育」東京都私立幼稚園教育研修会 『幼児教育年報38』39-44. 2002年12月

「幼児にふさわしい生活を創る」『第17回全日本私立幼稚園連合会四国地区教育研究大会研究集録』4-22. 2003年1月

「朝の読書について」『中越高等学校研究収録』17, 123-136. 2003年3月

「遊びの中の学びを考える」『東京学芸大学教育学部付属幼稚園平成13・14年度研究紀要』61-68. 2003年3月

「反省的実践家とは：D.ショーンをめぐって」『プロジェクト研究「成人の学習」記録集(1)』日本社会学会, 27-34. 2003年5月

「読書で元気なまちづくり」『街 こおりやま』340, 22-31. 2003年8月

＜新聞記事＞

「「負け」の経験から学ぶ」2002年10月11日付 日本教育新聞

「男性保育者への応援歌」2002年11月8日付 日本教育新聞

「暮らしが生まれる園環境」2002年12月13日付 日本教育新聞

「科学する芽を育てる保育」2003年1月17日付 日本教育新聞

「表情から察知する力」2003年2月14日付 日本教育新聞

「褒めると認める」2003年3月14日付 日本教育新聞

「本読む楽しさ 作者と共に」(対談 井上ひさし) 2003年7月8日付 朝日新聞

浅 井 幸 子(助手)

＜論文＞

「峰地光重による事物の教育—新教育における田園学校の夢とその展開—」『國學院大學教育学研究室紀要』第37号, 155-175頁, 2003年3月,

生涯教育計画コース

佐 藤 一 子(教授)

＜著書＞

・『子どもが育つ地域社会』東京大学出版会 2002年10月 pp.220

＜論文＞

・「参加型市民教育の芽を摘む教育基本法『改正』」「教育」2003年4月号 pp.65-71

・「第7条『社会教育』」教育科学研究会編『いま, なぜ教育基本法改正か』国土社 2003年8月(分担執筆)pp.148-154

・「子ども若者の社会参加と市民教育」市川伸一編『「学力」から「人間力」へ』 教育出版社 2003年9月(分担執筆)pp.35-48

＜報告書＞

・科学研究費補助金基盤研究B(1)『NPOの教育力と社会教育の公共性をめぐる総合的研究(研究代表者・佐藤一子)2003年3月 pp.337

・「ナショナリズムと市民的共同性の相克をめぐる日本の社会教育の課題—アジアにおける民衆的連帯にむけた学びの創造」 日本社会教育学会『50周年記念国際シンポジウム資料集』2003年9月(和文・英文)pp.55～61, pp.107～114

＜その他＞

・「教育・学校」(鈴木眞理と共)『現代用語の基礎知識』(2002)2002年11月 自由国民社 pp.944～956

・「学校の変容と子どもの自己決定」『子ども白書』2003年5月 草土文化社 pp.31～34

・書評「住田正樹・南博文編『子どもたちの「居場所」と対人的世界の現在』」「教育学研究」第70巻第3号 2003年9月 pp.135 ～136

三 浦 逸 雄(教授)

＜論文＞

「東京大学における外国人留学生の図書館・情報サービス利用の実態－アンケート調査の結果と分析－」(三浦逸雄・呉凱・顧銘・芳鐘冬樹)『東京大学大学院教育学研究科紀要』第42巻, 2002年, p.349-367.

＜その他＞

「大学図書館の教育・学習支援サービス」『平成15年度大学図書館職員長期研修 講義要綱』p.134-137.

小　川　正　人(教授)

＜著書・編著，分担執筆＞

・「教育委員会制度研究の総括と課題―戦後教育行財政制度の構造と教育政策の研究方法をめぐって―」(本多正人編著『教育委員会制度再編の政治と行政』多賀出版　2003年1月)205頁～225頁

・『「学びの社会」の創造へ－分権型システムと普遍的サービスの充実－』(共編著．AS選書　アドバンテージサーバー　2003年1月)全75頁

・『解説　教育六法』平成15年度版(共編修．三省堂　2003年2月)全1182頁

＜学会年報・紀要，報告書，雑誌論文＞

・「教育委員会制度の機能と改革課題」(共同研究)(『東京大学大学院教育学研究科紀要』第42巻　2003年3月)369頁～398頁

・「分権改革推進会議最終報告と義務教育費国庫負担金制度」(『学校事務』2003年1月号　学事出版)12頁～17頁

・「分権改革と新たな教育委員会の創造に向けて」(『教育展望』教育調査研究所　2003年3月)12頁～19頁

・共同調査研究報告書「川崎市子どもの権利に関する実態・意識調査報告書」(川崎市子どもの権利委員会　2003年7月)全180頁

＜雑誌論文，その他＞

・「連載企画・教育委員会レポート－改革への挑戦－」第20,21,22回「志木市教育委員会　市民主体の市政づくりと子どもの学習支援を軸にした教育改革(上)(中)(下)」(『悠』ぎょうせい　2002年11月号～2003年1月号)

・第23,24回「自治体教育行政改革と教育委員会の課題(上)(下)」(『悠』ぎょうせい　2003年2月号～3月号)

・「教育委員会と首長部局の再編－補助執行による教委制度の縮小・再編－」(『悠』ぎょうせい2003年4月号)

・「公立義務学校教員給与制度の見直し動向と自治体教育行政(上)(下)」(『悠』ぎょうせい2003年5月号～6月号)

・「分権改革と教育自治立法の整備・活用の課題(上)(下)」(『悠』ぎょうせい2003年7月号～8月号)

・「地方制度改革下の教育委員会制度改革の行方(上)(下)」(『悠』ぎょうせい2003年9月号～10月号)

・「座談会　人間力　学校経営」(『教職研修　2003'情報板』教育開発研究所2003年3月)11～47頁

・「義務教育費国庫負担制度廃止問題」(『最新　教育キーワード137』時事通信社　2003年7月)98頁～99頁

・「講評－教育基本法改正・教育振興基本計画の教育長アンケート調査－」(日本教育新聞社『日本教育新聞』2003年1月10日付け)

・「鶴ヶ島市の教育行政の特徴と課題－教育行政調査から考えたこと－」(鶴ヶ島市教育委員会『つるがしましの教育』第110号　2003年9月)

根　本　　彰(教授)

＜著書＞

『文献世界の構造：書誌コントロール論序説』韓国語版(曺在順訳)韓国図書館協会　2003.3　323p.

堀川照代・中村百合子編『インターネット時代の学校図書館：司書・司書教諭のための「情報」入門』東京電機大学出版局　2003.2　173p.(監修)

＜論文＞

「政府情報へのパブリックアクセス論」『情報の科学と技術』Vol.53, No.2, 2003. p.59-68.

「公立図書館における電子図書館のサービスと課題に関する実態調査報告と課題提言」『公立図書館における電子図書館のサービスと課題に関する報告書』全国公共図書館協議会　2003.3　p.3-31.

＜その他＞

「成熟しない図書館」『読売新聞』2002年10月17日朝刊　取材協力

「揺れる図書館(上)：貸出は出版脅かす？」『読売新聞』2002年11月18日夕刊　取材協力

"Japan's Book Battle" Newsweek(International ed.) February 3, 2003, p39. 取材協力

「図書館情報学：あらゆる市民を対象にした情報共有環境をつくる」『教育学がわかる.』新版(AERA MOOK) 朝日新聞社　2003.5　p.44-45.

＜講演・学会発表・座談会＞

『情報基盤としての図書館の実現可能性について』大阪公共図書館協会研修委員会　2002年11月，25p.

「「ビジネス支援」で公共図書館を変える」『季刊・本とコンピュータ』2002年冬号　p.142-154.(常世田良，手嶋孝典，菅谷明子，津野海太郎と)

「高度な専門性を支える図書館学教育のあり方」『平成14年度全国図書館大会記録・群馬』同実行委員会　2003年3月　p.313-316.

「レファレンスサービスの果たす機能」『日本図書館文化史研究会2003年度研究集会・総会予稿集』

2003年9月　p.5-10.

＜翻訳＞

マーク・スミス『インターネット・ポリシー・ハンドブック』(戸田あきらほか訳)日本図書館協会 2003.4 221p.(監訳)

鈴　木　眞　理(助教授)

＜共編著書＞

『生涯学習と社会教育』(松岡廣路と共編著)(シリーズ生涯学習社会における社会教育1)学文社2003年4月

『社会教育と学校』(佐々木英和と共編著)(シリーズ生涯学習社会における社会教育2)学文社2003年4月

『生涯学習をとりまく社会環境』(小川誠子と共編著)(シリーズ生涯学習社会における社会教育3)学文社2003年4月

『生涯学習社会の学習論』(永井健夫と共編著)(シリーズ生涯学習社会における社会教育4)学文社2003年4月

『生涯学習の支援論』(津田英二と共編著)(シリーズ生涯学習社会における社会教育5)学文社2003年4月

『生涯学習の計画・施設論』(守井典子と共編著)(シリーズ生涯学習社会における社会教育6)学文社2003年4月

『生涯学習の原理的諸問題』(梨本雄太郎と共編著)(シリーズ生涯学習社会における社会教育7)学文社2003年4月

＜論文＞

「生涯学習施設とは何か：その考え方と課題」『季刊文教施設』第10号，2003年4月，p.25-28.

「青少年教育施設におけるボランティア学習の意義」国立オリンピック記念青少年総合センター『青少年のボランティア学習プログラムの在り方に関する調査研究報告書』2003年3月，p.3-6.

＜その他＞

「十日町青年学級」国立教育政策研究所社会教育実践研究センター『公民館における学級・講座等に関する調査研究報告書』2003年3月，p.39-42.

三　浦　太　郎(助手)

＜論文等＞

「図書館員教育の国際動向　2．ドイツの図書館学教育改革」『カレントアウェアネス』277号，国立国会図書館，2003年9月，pp.13-15.

「日本図書館情報学会略史」『日本図書館情報学会創立50周年記念誌』日本図書館情報学会，2003年10月，pp.1-29.(根本 彰氏と共著)

＜学会発表＞

「戦後占領期日本におけるライブラリースクール創設の経緯」日本図書館文化史研究会，2002年11月17日，明治大学

「ドン・ブラウンと図書館—ジャパン・ライブラリースクール(JLS)創設過程を中心に—」横浜国際史研究会，2002年11月30日，横浜開港資料館

増　山　　均(客員教授)

＜著書：単著＞

『子育ての知恵は竹林にあった』(柏書房　2003年4月　206p.)

＜著書：分担執筆＞

「子どもの権利条約と子育て」(教育と医学の会編『現代人の心支援シリーズ1　乳幼児期「こころの発達をはぐくむ」』慶応大学出版会　2002年10月　pp.132－142)

「子どもの文化の現在」「子どもの遊び」(管理職スペシャルレクチャーNO.6『最新青少年事情サミングアップ』教育開発研究所　2003年2月　pp.2－7)

「文化創造と教育」(『日本の民主教育』2003課題別編　大月書店　pp.148－152)

＜論文＞

「『子ども・高齢者』問題の光と影」(『生活教育』650号　日本生活教育連盟　星林社　2003年1月　pp.6－12)

「『子どもの世界』と『子ども期』のゆくえ」(『教育』685号　教育科学研究会　国土社　2003年2月　pp.8－13)

＜その他＞

「子どもの成長に，自然がなぜ欠かせないのか」(『子どものしあわせ』632号　草土文化　2003年10月　pp.32－35)

(辞典項目)「国連子どもの権利委員会勧告」など8項目(一番ヶ瀬康子他編『社会福祉辞典』大月書店　2002年10月)

(座談会)「NPOは，この世界の何を変え得るか」(『子どもの文化』35巻8号　子どもの文化研究所　2003年7・8月合併号　pp.6－22)

(座談会)「とりもどしたい食卓の力」(『婦人の友』97巻9号　婦人の友社　2003年9月号　pp.42－53)

身体教育学コース

武　藤　芳　照(教授)

＜編著書＞

『転倒予防教室－転倒予防への医学的対応(第2版)』(黒柳律雄らと共著)，日本医事新報社，2002.12

＜論文＞

「思春期女性の健康管理における産婦人科医師の役割：女子水泳選手への応用」(藤井亜希子らと共著)，水と健康医学研究会誌 Vol.5，No.1；7-12，2002

「転倒症例における医療事故管理」(上内哲男と共著)，理学療法ジャーナル Vol.36，No.10；763-769，2002

「高齢者の転倒予防への医学的対応」(太田美穂らと共著)，運動療法と物理療法 Vol.13，No.2；98-105，2002

「一流水泳選手の医学的諸問題」(岡田知佐子らと共著)，水と健康医学研究会誌 Vol.5，No.1；19-22，2002

「高校野球選手における腰部障害のメディカルチェックとその予防対策」(長谷川亜弓らと共著)，臨床スポーツ医学 Vol.19，No.12：1431-1436，2002

「転倒恐怖者の移動能力と生活状況に関する研究」(上岡洋晴らと共著)，身体教育医学研究第4巻1号；21-26，2003

「Walking Characteristics and Bone Mineral Density in Community-dwelling Elderly Women: A Cross-Sectional Study」(H. Park, S. Park, T. Komatsu, T. Kaminai, Y. Mutoh) *Journal of Physical Education and Medicine* Vol.4 No.1:11-19，2003

＜報告書等＞

「スポーツドクターレポート『第5回水と健康医学研究会』」(橋口知らと共著)，臨床スポーツ医学 Vol. 19，No.12：1505-1508，2002

「自治体の介護予防の取り組みを評価する指標について」(岡田真平らと共著)，身体教育医学研究第4巻1号；43-51，2003

「日本と韓国の中高年齢者の体力特性および下肢筋力の比較」(朴晟鎭らと共著)，身体教育医学研究第4巻1号；37-41，2003

「テニスインストラクターの肩関節・股関節可動域および上肢・下肢周径について」(高橋亮輔らと共著)，身体教育医学研究第4巻1号；31-35，2003

＜解説・レポート＞

「温泉プールを活用した健康づくり・介護予防事業の実際-長野県北御牧村での取り組みから-」(岡田真平らと共著)，生活教育 Vol.46，No.10；12-17，2002

「温水プールを活用した運動あそびのすすめ」(上岡洋晴らと共著)，生活教育 Vol.46，No.10；37-44，2002

「転倒予防教室の取り組み」(黒柳律雄と共著)，月刊総合ケア Vol.12，No.12：15-18，2002

「肥満学童に対する身体活動の維持・増進への支援」(原光彦)，身体教育医学研究第4巻1号；81-89，2003

＜学会発表＞

「A New Battery of Tests for Assessing Mobility of the Community-Dwelling Elderly - the Good Walker's Index (Kenkyakudo)-」(Kamioka H., Mutoh Y., Okada S., Ohta-Fukushima M.)，日中医学大会2002,2002年11月　北京

「Mobility and Balance among Community Dwelling Older Adults in Beijing: A Study about the Custom of Utilizing Bicycle Transportion」(Hou W., Kamioka H., Mutoh Y.)，日中医学大会2002，2002年11月　北京

「Evaluation of Fall Prevention Program: Good Walker's Index and Profile of Moods States」(Soyano A., Mutoh Y., Murashima S.)，日中医学大会2002，2002年11月　北京

「『転倒予防教室』で行われている高齢者向け運動プログラムとその効果」(黒柳律雄らと共同)，第76回日本整形外科学会学術集会，2003年5月　金沢市

「中・高齢者における健脚度」(川崎雅史らと共同)，第76回日本整形外科学会学術集会，2003年5月　金沢市

「高齢者の転倒は身体運動能力の低下に関連する」(藁科秀紀らと共同)，第76回日本整形外科学会学術集会，2003年5月　金沢市

「The effects of compound exercise program of fracture risk factors in community-dwelling elderly women」(Hyuntae PARK, Sangkab PARK, Yoshiteru MUTOH)，American College of Sports Medicine 50th Annual Meeting，2003年5月　San Francisco

「『転倒予防教室』修了後の中高年者の身体機能の推移及び転倒状況」(黒柳律雄らと共同)，第40回日本リハビリテーション医学会学術集会，2003年6月　札幌市

「『転倒予防教室』修了者における前期高齢者と後期

高齢者の身体機能の推移の比較」(長谷川亜弓らと共同)，第40回日本リハビリテーション医学会学術集会，2003年6月　札幌市

「水泳競技大会救護における医学的問題と救護症例票に関する考察」(渡部厚一らと共同)，第6回水と健康医学研究会，2003年6月，鹿児島市

「水泳コーチの月経に関する意識の現状」(藤井亜希子らと共同)，第6回水と健康医学研究会，2003年6月　鹿児島市

＜学術講演等＞

「高齢者の転倒予防教室の理論と実際」，第30回多摩整形外科医会，2002年10月　東京都三鷹市

「高齢者の運動医学の実践と教育」，第13回日本臨床スポーツ医学会学術集会，2002年11月　名古屋市

「高齢者の『転倒予防教室』の理論と実際」，東信整形外科懇話会，2003年2月長野県佐久市

「スポーツで老後を楽しむ」，日本医師会生涯教育講座　整形外科医学セミナー「21世紀の医療サービスを考える—患者のための医療とは—」，2003年5月　大阪市，6月　福岡市

「転ばぬ先の杖と知恵—高齢者の転倒，骨折，介護予防—」，日医生涯教育講座健康スポーツ医学再研修会，2003年7月　岡山市

「ヒトはなぜ転ぶのか？—高齢者の『転倒予防教室』の理論と実際—」，尾張耳鼻咽喉科医会研修会，2003年7月　名古屋市

「高齢者の廃用性機能障害に対する運動療法」，日本整形外科学会認定スポーツ医資格継続のための研修会，2003月8月　東京

「高齢者の転倒予防教室の理論と実際」，千葉県整形外科医会第23回整形外科夏期卒後研修会，2003年9月　千葉

衛　藤　　隆(教授)

＜著書・分担執筆＞

『新版 学校教育辞典』初版(編集委員)，教育出版，2003

「小児科医と法律」五十嵐　隆，渡辺　博，田原卓浩編『小児科研修医ノート－医のこころ』初版，診断と治療社，pp.140-144，2003

「小児の事故の特徴，安全教育，応急処置」高野　陽，加藤則子，加藤忠明編著『保育ライブラリ　子どもを知る　小児保健』初版，北大路書房，pp.106-117，2003

＜論文＞

「『日本ニ於ケル學校衛生ノ現状ニ関スル統計資料』の戦後学校保健政策上の位置」(七木田文彦らと共著)学校保健研究，45(2)：121-144，2003

＜総説＞

「これからのヘルスプロモーション」『小児内科』34(増刊)：22-25，2002

「学校保健管理のシステムと手法」『公衆衛生』67(1)：21-24，2003

「学校保健の現状と将来」『保健の科学』45(7)：468-471，2003

＜報告書＞

「小児心身症対策の推進に関する研究」小林陽之助，沖　潤一らと共著，平成14年度厚生労働科学研究(子ども家庭総合研究事業)『小児心身症対策の推進に関する研究』(主任研究者：小林陽之助)報告書(第2／11)，p.431-617，2003

平成14年度厚生労働科学研究(子ども家庭総合研究事業)『思春期の保健対策の強化及び健康教育の推進に関する研究』(主任研究者：衛藤　隆)報告書(第2／11)，p.667-756，2003

「母子保健分野の個人情報保護に関する研究」平成14年度厚生労働科学研究(政策科学推進事業)『保健事業における個人情報の保護及び利活用に関する研究』(主任研究者：吉田勝美)報告書，p.12-14，2003

＜学会発表＞

「地域保健計画と学校保健－連携の現状と課題－」教育講演7，第49回日本学校保健学会，札幌市，2002年9月15日，抄録：学校保健研究，44(増刊)，pp.16，2002

「ヘルスプロモーションの実践とその評価－学校保健管理における一考察－」国際シンポジウム2002「東アジアの体育・スポーツの進展を目指して－ジュニア選手の競技力向上と健康管理－」，主催：福岡教育大学附属体育研究センター，福岡市民会館，2002年10月24日

「子どもの体力と育成環境」総合シンポジウム2「健やかなこころとからだの育成をめざして－子どもの心身の異常への対応－」，第106回日本小児科学会学術集会，福岡市，2003年4月25日，抄録：日本小児科学会雑誌，107(2)：201，2003

＜講演＞

「心身の機能の発達と心の健康－思春期の心身の発育・発達－」平成14年度健康教育指導者中央研修

会，企画：文部科学省，実施：独立行政法人教員研修センター，独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター，2002年10月17日

「子どもの心と体」平成14年度全国健康教育研究協議会特別講演，主催：文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課，独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター，2002年10月28日

「これからの学校健診のあり方」広島県医師会学校医学校保健研修会特別講演，主催：広島県医師会，広島県医師会館講堂，2002年10月31日

「ヘルスプロモーションの視点からみた保健管理」第52回全国学校保健研究大会課題別協議会，第6課題講義，福井県労働福祉会館，2002年11月8日

「思春期の子どものこころとからだ」東大病院医療サービス推進委員会第3回研修会(小児科)，東京大学医学部附属病院研究棟第一会議室，2002年12月17日

「子どもの健康－こころとからだの最近の話題－」第612回松本市医師会生涯教育講座特別講演，松本市医師会館，2003年6月12日

「乳幼児の健康と発達」平成15年度親と子のいきいき学級セミナー(東ブロック)，主催：福島県，社団法人全国保健センター連合会，福島ビューホテル，2003年7月24日

「子どもの健康－こころとからだ，最近の話題－」第14回ひろしまっこ健康フェスタ講演，主催：日本小児科学会広島地方会，広島市健康づくりセンター健康科学館，2003年9月7日

「健康教育の推進について」平成15年度学校栄養職員等研修会，企画：文部科学省，実施：独立行政法人教員研修センター，独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター，2003年9月9日

＜その他＞

(書籍編集)『今日の小児治療指針．第13版』医学書院，2003

(特集序文)＜序＞「子ども虐待－診断と初期対応を特集するにあたって」，小児内科，34(9)：1328-1329，2002

(学会教育講演座長)「乳幼児期からはじまる思春期の健全育成－思春期患者の乳幼児期を振り返って－」，第49回日本小児保健学会，ポートピアホール，2002年10月11日

(座談会司会)，「地域保健(乳幼児保健)と学校保健の連携について」，小児保健研究，61(6)：753-768，2002

(指導助言者)課題別研究協議「第2課題　保健管理の進め方」，平成14年度養護教諭中央研修会，企画：文部科学省，実施：独立行政法人教員研修センター，独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター，2002年11月14日

(ラジオ収録)ラジオたんぱ「特別医学講座－健康教育からみた思春期の問題」，2002年11月20日収録，提供：日本医師会

(テレビ取材)NHKニュース「子どもにアレルギーの病気がふえている」，2002年12月18日

(編集後記)日本公衆衛生雑誌，50(2)：162，2003

(Opinion)「絵本と出会う・親子ふれあい事業の成果と課題」，Monthly 保健センター，pp.2，2003年3月

(ビデオ監修)「お母さんの声に耳をすませて　みんなで子育て」，企画：財団法人こども未来財団，制作：毎日EVRシステム，2003年3月

(雑誌分担執筆)「若い世代をたくましく育てる」『新版　教育学がわかる』アエラ Mook No. 90，pp.52-53，2003年6月

(新聞取材)「学校健診，戸惑い広がる」朝日新聞，名古屋本社版朝刊，2003年7月4日

山　本　義　春(教授)

＜論文＞

Soma, R., D. Nozaki, S. Kwak, and Y. Yamamoto. 1/f Noise outperforms white noise in sensitizing baroreflex function in the human brain. *Physical Review Letters* 91: 078101-1-4, 2003.

Yoshiuchi, K., Y. Yamamoto, H. Niwamoto, T. Watsuji, H. Kumano, and T. Kuboki. Behavioral power-law exponents in the usage of electric appliances correlate mood states in the elderly. *International Journal of Sport and Health Sciences* 1: 41-47, 2003.

Aoyagi, N., K. Ohashi, and Y. Yamamoto. Frequency characteristics of long-term heart rate variability during constant routine protocol. *American Journal of Physiology, Regulatory, Integrative, and Comparative Physiology* 285: R171-R176, 2003.

Kitajo, K., D. Nozaki, L. M. Ward, and Y. Yamamoto. Behavioral stochastic resonance within the human brain. *Physical Review Letters* 90: 218103-1-4, 2003.

Yamamoto, Y., J. J. LaManca, and B. H. Natelson. A

measure of heart rate variability is sensitive to orthostatic challenge in women with chronic fatigue syndrome. *Experimental Biology and Medicine* 228: 167-174, 2003.

Yamamoto, Y., I. Hidaka, D. Nozaki, N. Iso-o, R. Soma, and S. Kwak. Noise-induced sensitization of human brain. *Physica* A 314: 53-60, 2002.

Yamamoto, Y., R. Soma, I. Hidaka, D. Nozaki, N. Iso-o, and S. Kwak. Noise-induced sensitization of human brain: Toward the neurological application of stochastic resonance. In: Unsolved Problems of Noise and Fluctuations, Bezrukov, S. M., editor. *American Institute of Physics*, pp.234-241, 2003.

Kotani, K., K. Takamasu, L. Safonov, and Y. Yamamoto. Multifractal heart rate dynamics in human cardiovascular model. Proceedings of SPIE 5110: 340-347, 2003.

Kitajo, K., D. Nozaki, L. M. Ward, and Y. Yamamoto. Behavioral stochastic resonance in the human brain. *Proceedings of SPIE* 5110: 252-261, 2003.

Soma, R., S. Kwak, and Y. Yamamoto. Functional stochastic resonance in human baroreflex induced by 1/f-type noisy galvanic vestibular stimulation. *Proceedings of SPIE* 5110: 69-76, 2003.

清野　健, 大橋恭子, 青柳直子, 山本義春「統計物理的にみた心拍変動」『循環制御』 24: 207-214, 2003.

＜招待講演・シンポジウム講演＞

Yamamoto, Y. Statistical physics approaches to heart rate variability. Chronotherapy Forum: New Insights for the Better Treatment. Tokyo (September, 2003).

Soma, R., S. Kwak, and Y. Yamamoto. Functional stochastic resonance in human baroreflex induced by noisy galvanic vestibular stimulation. SPIE's First International Symposium on Fluctuations and Noise. Santa Fe, U. S. A. (June, 2003).

Yamamoto, Y. Technological advances in researching medically unexplained illness. The 6th International Conference of American Association for Chronic Fatigue Syndrome. Washington, D. C., U. S. A. (January, 2003).

「統計物理学的にみた心拍変動」第24回日本循環制御医学会総会・シンポジウム「自律神経評価法の有用性と限界」, 大阪, 2003年5月.

山本義春, 相馬りか「ヒト脳幹へのノイズ入力による起立性循環調節能の向上」第13回日本病態生理学会細見記念シンポジウム「循環の神経性調節 Updates」, 千葉, 2003年1月.

「生体ゆらぎ解釈の方略～信号処理的アプローチと統計力学的アプローチ～」産業技術総合研究所ヒューマンストレスシグナルセンター講演会, 大阪, 2002年12月.

「ゆらぎ解析の最近の動向」第17回ゆらぎ現象研究会指定討論, 仙台, 2002年11月.

「ゆらぎの効用　確率共振」第17回ゆらぎ現象研究会基調講演, 仙台, 2002年11月.

「ノイズでヒトの機能を高める～ヒトの中の確率共振～」産業技術総合研究所第7回複雑現象工学グループ講演会, 筑波, 2002年11月.

柴　若　光　昭(助教授)

＜論文等＞

「身体性を考慮した保健室心身情報活用システムに関する開発研究」平成10－12年度科学研究費補助金基盤研究B(2)研究成果報告書　51p　2002年12月

「地域における児童の危機管理に関する調査研究」(詫間晋平らと共著)財団法人こども未来財団　2003年3月

「「日本ニ於ケル學校衛生ノ現状ニ関スル統計資料」の戦後学校保健政策上の位置」　学校保健研究第45巻第2号 pp.121-144　(七木田文彦らと共著)　2003年6月

＜その他＞

「イタリア紀行」日本学校保健会ニュース　2003年3月

平　野　裕　一(助教授)

＜著書＞

福永哲夫編著「筋の科学事典 －構造・機能・運動－」朝倉書店, 東京, 2002.

9.2.(1)「筋力, 筋パワー測定法」pp410-415

9.5.(1)「動作分析法」pp436-438

9.5.(2)「圧力盤法」pp438-443

宮下充正, 臼井永男編著「身体福祉論」放送大学教育振興会, 東京, 2002.

3章「からだを動かす能力の成長にともなう発達」pp33-44

8章「方法2：力強さを増すレジスタンス・エクササイズ」pp110-121
14章「方法8：室内でできるマシン・エクササイズ」pp208-223

＜論文＞

平野裕一，石田和之：少年野球選手の打動作の習得．第17回日本バイオメカニクス学会大会論集，pp178-179，2003

村田正洋，平野裕一：野球のピッチャーにおける投球軌跡の計測．第17回日本バイオメカニクス学会大会論集，pp108-109，2003

Hirano, Y. and M. Murata: Effects of Ball Movement and Position at Impact on Grip Firmness in Baseball Batting. *Proc of ISB* XIXth Congress, p157.

多　賀　厳太郎(講師)

＜論文＞

G. Taga, K. Asakawa, A. Maki, Y. Konishi, H. Koizumi: Brain Imaging in Awake Infants by Near Infrared Optical Topography, *PNAS*, 100-19, 10722-10727, 2003

多賀厳太郎：乳児の運動と脳の発達，体育の科学，52: 929-933, 2002

多賀厳太郎：ヒトの発達脳科学，日本神経回路学会誌，9: 250-253, 2002

＜学会発表・講演＞

G. Taga: Dynamics of spontaneous movements of infants. The international symposium of baby science, Tokyo, Nov. 18, 2002

多賀厳太郎：運動と知覚の発達におけるU字型現象と身体性，人間の認知における内的知識と外部情報の統合的利用に関する第2回シンポジウム，京都，2002.10.5(招待)

多賀厳太郎：脳の動的発達，動的システムの情報論II，統計数理研究所，東京，2002.11.8(招待)

多賀厳太郎：赤ちゃんの脳におけるモジュールの分化と統合，科学技術振興事業団情「報と知」領域研究報告会，東京，2002.12.13

多賀厳太郎，浅川佳代：乳児の音声知覚に関連する脳活動の半球優位性，日本赤ちゃん学会第3回総会，東京，2003.4

浅川佳代，多賀厳太郎，平澤恭子，小西行郎：光トポグラフィーによる光刺激に対する新生児の脳機能計測，日本赤ちゃん学会第3回総会，東京，2003.4

中野尚子，長谷川武弘，小西行郎，木原秀樹，多賀厳太郎，高谷理恵子：低体重出生児のGeneral Movementsに対するpositioningの影響，日本赤ちゃん学会第3回総会，東京，2003.4

長谷川武弘，平沢恭子，小西行郎，浅川佳代，多賀厳太郎，牧敦，小泉英明：新生児の哺乳中における大脳活動の計測，日本赤ちゃん学会第3回総会，東京，2003.4

T. Nakano, Y. Kamitani, G. Taga: Visual field mapping of the occipital cortex using Optical Topography, 日本視覚学会，逗子，2003.7

渡辺はま・多賀厳太郎：乳児の記憶 - Motion Analysisを用いて，Memory Dynamics 2003，2003.8.21

多賀厳太郎：ダイナミックシステムズアプローチが意味するもの，日本心理学会，2003.9(招待)

山　中　健太郎(助手)

＜論文＞

Nakazawa K. Kawashima N. Obata H. Yamanaka K. Nozaki D. Akai M. Facilitation of both stretch reflex and corticospinal pathways of the tibialis anterior muscle during standing in humans. *Neuroscience Letters*, 338(1): 53-56, 2003

Kimura T. Yamanaka K. Miyoshi T. Nozaki D. Nakazawa K. Akai M. Ohtsuki T. Hysteresis in corticospinal excitability during gradual muscle contraction and relaxation in humans. *Experimental Brain Research*,152(1): 123-132, 2003

＜学会発表＞

Yamanaka K. Yamamoto Y. Independent components of event-related potentials just before and after a Go or NoGo decision. Society for Neuroscience 32nd Annual Meeting, Orlando, Florida, USA, 2002.11.2-7

Nakazawa K. Yamanaka K. Kawashima N. Yamamoto S. Nozaki D. Masani K. Akai M. Facilitation of both corticospinal and stretch reflex excitability in the inactive tibialis anterior muscle during human bipedal stance. Society for Neuroscience 32nd Annual Meeting, Orlando, Florida, USA, 2002.11.2-7

北　城　圭　一(助手)

＜論文＞

K. Kitajo, D. Nozaki, L. M. Ward and Y. Yamamoto, Behavioral stochastic resonance within the human brain. *Physical Review Letters* 90: 218103, 2003.

＜学会発表＞

K. Kitajo, D. Nozaki L. M. Ward and Y. Yamamoto, Behavioral stochastic resonance in the human brain. Fluctuations and Noise in Biological, Biophysical and Biomedical System, Santa Fe USA, June, 2003(*Proceedings of SPIE* 5110: 252-261, 2003)

澤　井　和　彦(助手)

＜著書＞

「スポーツとジェンダーのパラドクス　女性選手のスポーツ参加について～N.ルーマンの社会システム理論による把握～」(「現代スポーツ社会学序説　第22章」海老原修編)澤井和彦．杏林書院，2003年3月15日，pp49-57.

「スポーツ選手のパフォーマンスを規定する社会的要因について～日本的文脈とイメージの逸脱者「中田英寿」～」(「現代スポーツ社会学序説　第6章」海老原修編)澤井和彦．杏林書院，2003年3月15日，pp177-185.

＜学会報告など＞

「スポーツのプロ化を考える」澤井和彦，山谷拓志，佐野毅彦，倉石治,「日本スポーツ産業学会第11回大会報告書」，2002

「サイバースポーツを考える」澤井和彦，士反康裕，尾見成幸,「日本スポーツ産業学会第11回大会報告書」，2002

「東京都高校サッカー部における部員数と中途退部率に関する調査研究」澤井和彦，東原文郎，日本スポーツ社会学会(2003.3.23, 岡山)

「東京大学運動会の活動と課題」澤井和彦，日本体育学会東京支部研究会(2003.7.19, 東京)

「ワークショップ；日本のスポーツリーグのビジネスモデルを考える」間野義之，澤井和彦，山谷拓志，小倉俊行，小坂伸吉，日本スポーツ産業学会(2003.7.28, 東京)

「インターネットを活用した大学スポーツ施設運営の事例研究－スポーツ・サービスのネットワーク型運営の可能性と課題－」澤井和彦，山岸淳，日本スポーツ産業学会(2003.7.29, 東京)

加　藤　則　子(併任助教授)

＜原著＞

品川靖子，品川隆，畑栄一，加藤則子「低出生体重児における身体発育と乳歯萌出に関する縦断研究」『小児保健研究』2003;62(1):57-64.

加藤則子，北村邦夫，望月友美子，大井田　隆「全国における思春期外来ならびに思春期相談窓口の設置状況に関する調査結果」『思春期学』2003;21(3):283-290.

＜総説＞

加藤則子，犬飼和久，柴田隆「極低出生体重児における身体発育の15歳に至る追跡」『小児科』2002;43(10):1497-1501.

「ライフステージ」尾崎米厚他編「今を読み解く保健活動のキーワード」2002;医学書院，東京:173.

「新生児・乳児期の身体発育」『周産期医学』2002;32,増刊号:439-443.

「2000年乳幼児の身体発育調査からみた今後の動向」日本学校保健会編．学校保健の動向　平成14年度版．2002;日本学校保健会，東京;78.

「オーストラリアの学校健康診断」．日本学校保健会編．学校保健の動向　平成14年度版．2002;日本学校保健会，東京;235-237.

「最近の小児の身体発育—乳幼児身体発育値を中心に—」川井尚，平山宗宏編．新版・乳幼児保健指導—平成14年版母子健康手帳と平成12年度幼児健康度調査から－小児保健シリーズ　No.55. 2002;小児保健協会，東京:72-80.;2002

加藤則子，奥野晃正，高石昌弘「乳幼児の身体発育値」加藤則子，高石昌弘編「乳幼児身体発育値—平成12年厚生省調査－」小児保健シリーズ　No.56. 2002;　小児保健協会，東京:1-75.

「10年ぶりに発表された「乳幼児身体発育調査」」『母子保健情報』2002;44:104-107.

「母子健康手帳の活用法」『周産期医学』2003;33(1):9-12.

「ふたごの育児」チャイルドヘルス,2003;6(3):167-170.

「出生体重に関連する母体側要因　環境要因，経済要因」周産期医学，2003;33(6)693-696.

＜学会発表＞

小林正子，加藤則子，小林秀資「思春期の≪キレる≫子どもの現状とその要因に関する一考察」第61回日本公衆衛生学会総会　2002.10，埼玉，抄録集 p662

加藤則子，成清マサキ，伊藤憲美，吉橋和子，福田良子，石川房子，西谷徳美，伊藤順子「母乳栄養児の身体発育に関する検討(第２報)－３歳までの追跡－」第49回日本小児保健学会　2002.10，神戸，抄録集 p538-539

小林正子，向井田紀子，加藤則子「出生後の発育における身体リズムの形成に関する研究(１)－異性双生児の生後６か月余にわたる朝晩の体重計測値の時系列解析から－」第49回日本小児保健学会　2002.10，神戸，抄録集 p536-537

小林正子，柴田元也，加藤則子「首都圏高校生の「キレる」についての意識調査と実態及び生活．環境に関する調査研究」第49回日本学校保健学会;2002.9;札幌．同講演集;2002:338-339.

「双胎の出生時の体格に関する検討(1995年－1999年)」日本双生児研究学会第17回学術講演会．講演集 p.19.2003年１月，大阪

加藤則子，飯森裕一「胎児超音波計測値と乳児身体計測値との関連」日本小児科学会雑誌，2003;107:(２)411.

「双胎の出生時の体格に関する検討(1995年～1999年)」『日本新生児学会雑誌』2003;39(２)p.344

加藤則子，内山有子，田中哲郎「児童，生徒および幼児の年齢別身長別 BMI に関する検討」第22回日本思春期学会総会　学術集会抄録集 p.91.2003年８月，京都

加藤則子，小林正子，小林秀資「中学，高校生の行動の偏りの項目間の相互関係に関する検討」『日本公衆衛生雑誌』学会総会抄録集2003;50:(10)p.625

加藤則子，内山有子「双胎の出生児の体格に関する検討(1995 年～1999年)」第50回日本小児保健学会講演集．p,254-255,鹿児島

＜著書＞

加藤則子．発育，他．今野喜清，他編「学校教育辞典」教育出版，東京，2003.

「新しい乳幼児発育曲線とその使い方」平山宗宏，監修「新しい『母子健康手帳』とその利用」母子衛生研究会，東京，2003:18-24.

「地域母子保健と疫学」青木康子，他編．助産学大系第３版　第11巻　地域母子保健，日本看護協会出版会，東京，2003:47-76.

＜報告書＞

「多胎児における妊娠期間別体重及び身長基準値の試作」．平成13～14年度文部科学省科学研究費補助金　基盤研究ｃ２　報告書．2003.

「研究の背景と意義(既存統計から)」平成14年度児童環境づくり等総合調査研究事業「地域における児童の危機管理に関する調査研究(主任研究者：詫間晋平)」報告書．こども未来財団，2003:4-5.

「シンガポールの保健衛生組織」．平成14年度　厚生労働科学研究(厚生労働科学特別研究事業)「諸外国における保健所等保健衛生組織の実態調査研究(主任研究者：林謙治)」報告書．2003:83-90.

加藤則子，小林正子「中学・高校生の行動の偏りの項目間の相互関係に関する研究．平成14年度厚生労働科学研究」(こころの健康科学研究事業)「思春期における暴力行為の原因究明と対策に関する研究(主任研究者：小林秀資)」報告書．2003:151-163.

「０歳から20歳までの身体発育基準」「健康診査等指針の策定に関する調査研究(主任研究者：久道茂)」報告書，2003:31-33.

「Microsoft Excel を用いた身体計測値のプロット方法に関する一案」厚生労働科学研究(子ども家庭総合研究事業)「乳幼児から思春期まで一貫したこどもの健康管理のための母子健康手帳の活用に関する研究(主任研究者：小林正子)」報告書，2003:134-136.

中　澤　公　孝(併任助教授)

＜原著＞

Nakazawa K, Kawashima N, Obata H, Yamanaka K, Nozaki D, Akai M. Facilitation of both stretch reflex and corticospinal pathways of the tibialis anterior muscle during standing in humans. *Neuroscience Letters* 338, 53-56, 2003

Sekiguchi H, Nakazawa K, Akai M. Recruitment gain of the antagonistic motoneurons is higher during lengthening contraction than during shortening contraction in man. *Neuroscience Letters* 342, 69-72, 2003

Miyoshi T, Nozaki D, Sekiguchi H, Kimura T, Sato T, Komeda T, Nakazawa K, Yano H. Somatosensory graviception inhibits soleus H-reflex during erect posture in humans as revealed by parabolic flight experiments. *Experimental Brain Research* 150, 109-113, 2003.

Kawashima N., Sone Y., Nakazawa K., Akai M., Yano H. Energy expenditure during walking with weight bearing control orthosis (WBC) in thoracic

level of paraplegic patients. *Spinal Cord* 41, 506-510, 2003.

Sekiguchi H., Nakazawa K., Suzuki S. Differences in recruitment properties of the corticospinal pathway between lengthening and shortening contractions in human soleus muscle. *Brain Research* 977, 169-179, 2003.

Kawashima N., Sekiguchi H., Miyoshi T., Nakazawa K., Akai M. Inhibition of the human soleus H-reflex during standing without descending commands. *Neuroscience Letters* 345, 41-44, 2003.

Kimura T., Yamanaka K., Nozaki D., Nakazawa K., Miyoshi T., Akai M., Ohtsuki T. Hysteresis in corticospinal excitability during gradual muscle contraction and relaxation in humans. *Experimental Brain Research* 152, 123-132, 2003.

Kimura T., Nozaki D., Nakazawa K., Akai M., Ohtsuki T. Gradual increment/decrement of isometric force modulates soleus stretch reflex response in humans. *Neuroscience Letters* 347, 25-28, 2003.

Nozaki D., Kawashima N, Aramaki Y., Akai M., Nakazawa K., Nakajima Y., Yano H. Sustained muscle contractions maintained by autonomous neuronal activity within the human spinal cord. *Journal of Neurophysiology* DOI, 10.1152/jn.00200.2003

Kakihana W., Akai M., Yamazaki N., Takashima T., Nakazawa K. Changes of Joint Moments in the Gait of Normal Subjects Wearing Lateral Wedged Insoles. *American Journal of Physical Medicine and Rehabilitation* (accepted)

Masani K, Nakazawa K, Kouzaki M, Nozaki D, Popovic M. Importance of Body Sway Velocity Information in Controlling Ankle Extensor Activities during Quiet Stance. *Journal of Neurophysiology* DOI, 10.1152/jn.00730.2002.

Nakazawa K., Kawashima N, Akai M, Yano On the reflex co-activation of ankle flexor and extensor muscles induced by a sudden drop of support surface during walking in humans. *Journal of Applied Physiology* DOI, 10.1152/japplphysiol.00670.2003

河島則天，太田裕治，谷崎雅志，中澤公孝，赤居正美，脊髄損傷者の装具歩行における膝屈曲-伸展動作付与の試み，日本義肢装具学会誌19(3); 222-227, 2003

谷崎雅志，三好扶，中澤公孝，矢野英雄，赤居正美，水中歩行の床反力特性－歩行速度の影響－，運動・物理療法(J Physical Medicine) 14:129-134,2003

＜総説＞

小島成実，垣花　渉，中澤公孝，対麻痺患者の補装具歩行における運動調節，臨床脳波44-10, 625-630,2002

中澤公孝，赤居正美，ヒト脊髄歩行パターン発生器と脊髄損傷者の歩行，リハ医学，40:68-75, 2003

中澤公孝，移動機能および移動機能障害の理解 -機能のメカニズムとその障害-，クリニカルスタディ24-10, 4-11, 2003

＜学会発表＞

中澤公孝，対麻痺者の装具歩行トレーニングに伴う動作と歩行様筋活動の変化，科学研究費　公開シンポジウム「ヒトの運動の巧みさを探る」2003年3月16日，東京国際フォーラム

Nakazawa K., W. Kakihana, N. Kawashima, H. Yano Orthotic gait training can induce locomotor EMG activity in humans with spinal cord injury, Society for Neuroscience, Nov.10－15, 2001, SanDiego, USA

Masani K, Nakazawa K, Kouzaki M. Two frequency components in ankle extensor activity during human quiet standing. The 31st Annual Meeting Society for Neuroscience, San Diego, USA, 2001.11.

Yamanaka K. Kimura T. Kawashima N. Nozaki D. Nakazawa K. Yano H. and Yamamoto Y. Instruction dependent modulation of corticospinal excitability during Go/NoGo task. The 31st Annual Meeting Society for Neuroscience, San Diego, USA

Nozaki D and Nakazawa K(2001)Principle determining activation pattern of synergistic muscles in isometric leg extension. The 31st Annual Meeting Society for Neuroscience, San Diego, USA

中澤公孝，ヒトの脊髄歩行パターン発生器と対麻痺者の歩行，第4回ジャーナルクラブ特別セミナー，2002年11月29日，長崎大学

中澤公孝，脊髄損傷者の歩行トレーニングと体力の改善，平成14年度障害者スポーツ指導者講習会，2003.2.26，東京

Nakazawa K., Kakihana W., Kawashima N., Akai M., Yano H. Effect of orthotic gait training on locomotor-like EMG activity in paraplegic persons, 2nd World congress of the international society of physical and rehabilitation medicine, May 18-20,

2003, Praque, Czech Republic

Akai M., Kakihana W., Nakazawa K., Yamazaki S. Effect of Lateral Wedge Insole for Knee Osteoarthritis; A Motion Analytic Study, 2nd World congress of the international society of physical and rehabilitation medicine, May 18-20, 2003, Praque, Czech Republic

Miyoshi T., Shirota T., Yamamoto S-I., Nakazawa K., Akai M. Lower limb joint moment during walking in water. 2nd World congress of the international society of physical and rehabilitation medicine, May 18-20, 2003, Praque, Czech Republic

Nakazawa K., Yamanaka K., Kawashima N. Yamamoto S-I, Nozaki D., Masani, M. Akai. Facilitation of both corticospinal and stretch reflex excitability in the inactive tibialis anterior muscle during human bipedal stance. The 32nd Annual Meeting Society for Neuroscience, Nov. 2-7, 2002, Orland, USA

中澤公孝，河島則天，赤居正美，岩谷　力，脊髄損傷者の下肢受動運動による筋内酸素動態の変化，日本リハビリテーション医学会，2003. 6.18-20，札幌

学校臨床総合教育研究センター

亀　口　憲　治(教授)

＜著書・編著＞

教育と医学の会(編)こころの発達をはぐくむ(分担)2002年10月　慶應義塾大学出版会

上里一郎(監修)心理学基礎事典(分担)2002年11月　至文堂

日本家族カウンセリング協会(編)家族カウンセリングのすすめ(分担)2002年12月　子どもの未来社

福祉士養成講座編集委員会(編)老人・障害者の心理(分担)2003年２月　中央法規出版

日本家族研究・家族療法学会(編)臨床家のための家族療法リソースブック(分担)2003年５月　金剛出版

日本家族心理学会(編)家族カウンセリングの新展開(分担)2003年６月　金子書房

家族のイメージ(著)2003年７月　河出書房新社

システム心理研究所(編)FIT(家族イメージ法)(監修)2003年７月　システムパブリカ

システム心理研究所(編)FIT(家族イメージ法)マニュアル(監修)2003年７月　システムパブリカ

氏原寛・田嶌誠一(編)臨床心理行為(分担)2003年７月　創元社

＜論文＞

総合的心理教育の実践過程(共著)東京大学大学院教育学研究科紀要　42巻，471－495，2003年３月

家族と心理アセスメント　臨床心理学　３巻４号，470－476，2003年７月

心理教育相談室の将来構想について　東京大学大学院教育学研究科心理教育相談室紀要，26集，167，2003年７月

父親の新たな役割とその機能　日本教材文化研究財団研究紀要　第32号，4－9，2003年３月

＜その他＞

家族療法　児童心理　臨時増刊，ｉ－ｘ，2002年10月

ヨセミテへのドライブ旅行　このはな心理臨床ジャーナル　第７巻１号，121－123，2003年３月

＜書評＞

トレーバー・コール著バーンズ亀山静子・矢部文訳「ピアサポート実践マニュアル」臨床心理学第２巻６号，837，2002年11月

弘中正美著「遊戯療法と子どもの心的世界」心理臨床学研究　第20巻６号，610－612，2003年２月

Deborah Luepnitz 著“The Family Interpreted”精神療法　第29巻２号，101－102，2003年４月

＜報告書＞

心の健康と生活習慣に関する指導―実践事例集　文部科学省スポーツ青少年局　学校健康教育課編　2003年５月

中　釜　洋　子(助教授)

＜論文＞

「家族療法とジェンダー：家族療法の中でジェンダーはどのように取り上げられるか」『日本サイコ・セラピー学会雑誌』　2002年11月　第３巻　１号　pp.51-60

「文脈療法の現代的意味」『家族心理学年報21　家族カウンセリングの新展開』　2003年５月　pp.64-79　日本家族心理学会編集　金子書房

「家族をつなぐ女性：家族の発達という視点から」『臨床心理学』2003年７月　第３巻　４号　pp.568-572

＜座談会＞

下坂幸三，坂本真佐哉，高橋規子，中釜洋子，後藤雅博(司会)「特集　家族療法の多様なアプローチ：

摂食障害を例として」 座談会 『家族療法研究』 2003年8月 第20巻 2号 pp.93-111

＜紀要論文・研究所報・雑誌＞

「教室で生かすアサーション・トレーニング 下：子どもが変わる・クラスがまとまるアサーション」『児童心理』「特集：ストレスに弱い子」 2002年12月 第778号 pp.106-111

「カウンセリング・ルームから見えてくるもの 臨床心理士について」 別冊『発達』 2003年1月 第93巻 24号」 pp.18-25 「発達」 ミネルヴァ書房

「桜井論文に対するコメント」『上智大学臨床心理学研究 2002年』 2003年3月 第25巻 pp.12-15

＜単著・共著＞

園田雅代・中釜洋子・沢崎俊之共編著 『教師のためのアサーション』 2002年10月 金子書房

「子どもの心理治療に登場する父親と母親—両者が担う役割の比較」 柏木恵子・高橋恵子編著 『心理学とジェンダー』 2003年3月 pp.183-189 有斐閣

「家族療法」,「家族の発達」,「親子カウンセリング」の3編 下山晴彦編著 『よくわかる臨床心理学』 2003年4月 pp.122-125, 148-151, 178-179 ミネルヴァ書房

「13 Invisible Loyalties ／ Boszormenyi-Nagy, I.」と「34 家族療法入門 ／ 遊佐安一郎」『臨床家のための家族療法リソースブック：総説と文献105』 2003年5月 pp.114-115, pp.158-159 金剛出版

＜学会発表＞

吉川悟・中釜洋子・廣井・児島達美 「家族療法の研修：大学教育の場合」 自主シンポジウム 日本家族研究・家族療法学会第20回大会 2003年5月 大津

岡本吉生・高橋規子・中釜洋子・本橋 他 「議論・激論」 第20回大会企画シンポジウム 日本家族研究・家族療法学会第20回大会 2003年5月 大津

岩井昌也・中釜洋子・野末武義・平木典子・森川早苗 「カップル・カウンセリング：おもろい夫婦」 自主シンポジウム 日本家族心理学会第20回大会 2003年6月 川村学園女子大学

数井かずみ・中釜洋子・中村正・中村伸一 「女性と家族・男性と家族」 大会シンポジウム 日本家族心理学会第20回大会 2003年6月 川村学園女子大学

角 田 真紀子(助手)

＜論文＞

総合的心理教育の実践過程 Ⅳ ピア・サポートの視点から見た総合的心理教育の実践過程—東京大学大学院教育学研究科紀要 第42巻 471－496 2003

アンパンマンから勇気をもらった女児とのプレイセラピー 東京大学大学院教育学研究科心理教育相談室紀要 第26集 3－14 2003

第2章 認知行動療法におけるアセスメント(第2部：論考〔特集Ⅱ〕臨床心理面接の進め方)東京大学大学院教育学研究科心理教育相談室紀要 第26集 117－125 2003(共著)

＜海外文献抄訳＞

Delcia-Waack 他編 グループワークの専門家が彼らのお気に入りの活動を共有する：選択，計画，実施，処理のガイド 精神療法 第29巻 第2号 108－109 2003